

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	2019年10月30日提出
【計算期間】	第44期(自 2019年1月31日至 2019年7月30日)
【ファンド名】	MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり) MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)
【発行者名】	アセットマネジメントOne株式会社
【代表者の役職氏名】	取締役社長 菅野 暁
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【事務連絡者氏名】	酒井 隆
【連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目8番2号
【電話番号】	03-6774-5100
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

第一部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

（1）【ファンドの目的及び基本的性格】

主としてL A U Sインカムマザーファンド（以下「マザーファンド」といいます。）受益証券への投資を通じて米国の国債、アセットバック証券等の高格付債や転換社債等の株式関連債およびハイイールド債に投資を行い、信託財産の中・長期的な成長を目指して運用を行います。

<ファンドの特色>

主として、米国の債券市場3セクター（高格付け債・株式関連債・ハイイールド債）に分散投資します。

様々な景気・金利局面により、それぞれ異なる動きをする3つのセクターを効果的に組み合わせ、安定的なりターンの確保を目指します。

マザーファンドの運用は、ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシーが行います。

為替ヘッジを行う「Aコース」と、為替ヘッジを行わない「Bコース」のいずれかを選択できます。

各ファンドは、それぞれ2,000億円を上限に信託金を追加することができます。なお、信託金の上限額については、受託会社と合意のうえ、変更することができます。

一般社団法人投資信託協会が定める分類方法において、以下のように分類・区分されます。

<商品分類>

・商品分類表

< Aコース > < Bコース >

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉となる資産)
単位型	国内	株式
追加型	海外	債券
	内外	不動産投信
		その他資産 ( )
		資産複合

(注) 各ファンドが該当する商品分類を網掛け表示しています。

・商品分類定義

追加型	一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。
海外	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

債券	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
----	---

## &lt; 属性区分 &gt;

・属性区分表

## &lt; Aコース &gt;

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年1回  年2回	グローバル 日本 北米	ファミリーファンド <sup>3</sup>  ファンド・オブ・ファンズ
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回  年6回 (隔月)	欧州 アジア オセアニア	為替ヘッジ <sup>2</sup>
不動産投信 その他資産 (投資信託証券) <sup>1</sup>	年12回 (毎月)  日々	中南米 アフリカ 中近東 (中東)	あり (フルヘッジ) <sup>3</sup>
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型	その他 ( )	エマージング	なし

1 &lt; Aコース &gt; が投資信託証券への投資を通じて実質的な投資対象とする資産は、「債券・一般」です。

2 「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

3 &lt; Aコース &gt; は外貨建資産への投資にあたって、為替フルヘッジを原則にしています。

(注) &lt; Aコース &gt; が該当する属性区分を網掛け表示しています。

## &lt; Bコース &gt;

投資対象資産 (実際の組入資産)	決算頻度	投資対象地域	投資形態
株式 一般 大型株 中小型株	年1回  年2回	グローバル 日本 北米	ファミリーファンド <sup>3</sup>  ファンド・オブ・ファンズ
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回  年6回 (隔月)	欧州 アジア オセアニア	為替ヘッジ <sup>2</sup>
不動産投信 その他資産 (投資信託証券) <sup>1</sup>	年12回 (毎月)  日々	中南米 アフリカ 中近東 (中東)	あり ( )
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型	その他 ( )	エマージング	なし

1 &lt; Bコース &gt; が投資信託証券への投資を通じて実質的な投資対象とする資産は、「債券・一般」です。

2 「為替ヘッジ」は、対円での為替変動リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

（注）＜Bコース＞が該当する属性区分を網掛け表示しています。

・属性区分定義

その他資産 (投資信託証券)	目論見書又は投資信託約款において、主として「株式」、「債券」及び「不動産投信」以外の資産に投資する旨の記載があるものをいい、括弧内の記載はその該当資産を表す。
債券・一般	目論見書又は投資信託約款において、主として債券に投資する旨の記載があるもので、公債、社債、その他債券属性にあてはまらない全てのものをいう。 各ファンドは、主としてマザーファンド受益証券（投資信託証券）への投資を通じて、債券に投資を行います。
年2回	目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
北米	目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
ファミリーファンド	目論見書又は投資信託約款において、親投資信託（ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。）を投資対象として投資するものをいう。
為替ヘッジあり	目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
為替ヘッジなし	目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

（注1）商品分類および属性区分は、委託会社が目論見書または約款の記載内容等に基づいて分類しています。

（注2）各ファンドが該当しない商品分類および属性区分の定義につきましては、一般社団法人投資信託協会のホームページ（<https://www.toushin.or.jp/>）をご覧ください。

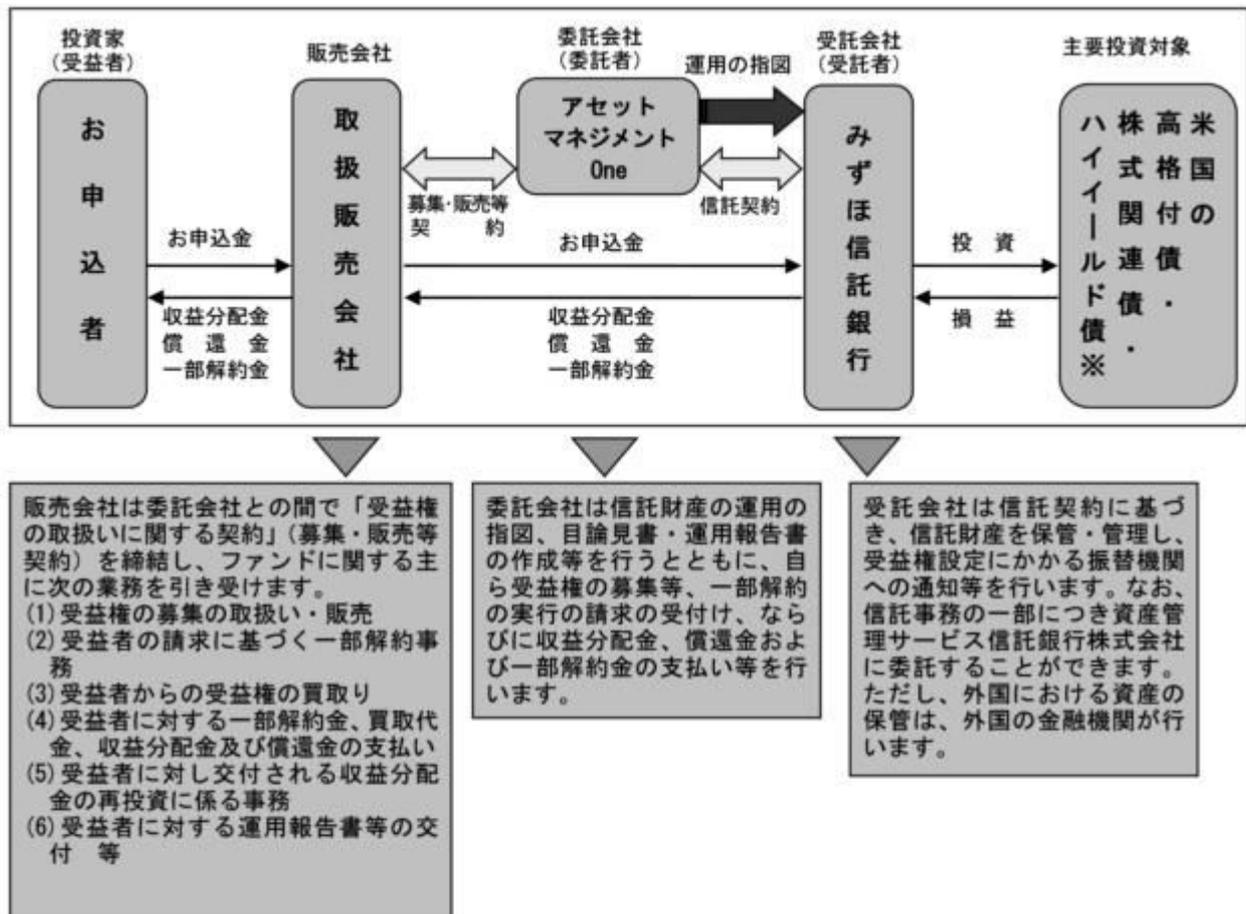
（注3）各ファンドはマザーファンド受益証券（投資信託証券）への投資を通じて、債券を主要投資対象とします。したがって、「商品分類」における投資対象資産と、「属性区分」における投資対象資産の分類・区分は異なります。

（2）【ファンドの沿革】

1997年1月31日	信託契約締結、ロード・アベット・アンド・カンパニーとマザーファンドの運用に係る投資助言契約締結、各ファンドの設定、運用開始
1999年8月31日	ロード・アベット・アンド・カンパニーとマザーファンドの運用に係る投資運用委託契約締結
2007年1月4日	投資信託振替制度へ移行
2007年7月1日	各ファンドの名称を「富士USインカムオープンAコース」、「富士USインカムオープンBコース」から「MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）」、「MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）」に変更
2016年10月1日	ファンドの委託会社としての業務をみずほ投信投資顧問株式会社からアセットマネジメントOne株式会社に承継

## (3) 【ファンドの仕組み】

## 各ファンドの運営の仕組み



※ 主要投資対象である米国の高格付債・株式関連債・ハイイールド債には、主として、LA USインカムマザーファンドを通じて投資を行います。

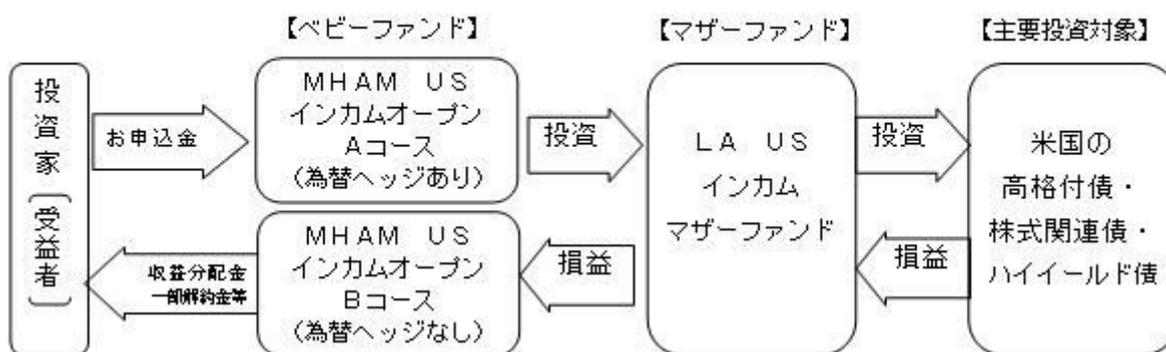
※ 各ファンドが主要投資対象とするLA USインカムマザーファンドにおいて、委託会社は、運用指図に関する権限を、ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー（以下、「ロード・アベット社」といいます。）に委託します。

ロード・アベット社は、委託会社との「投資運用委託契約」（以下「外部委託契約」といいます。）に基づき、マザーファンドにおいて、有価証券等の投資判断および発注等を行います。

## ファミリーファンド方式の仕組み

各ファンドは「LA USインカムマザーファンド」をマザーファンドとするファミリーファンド方式で運用を行います。

## 《ファミリーファンド方式》



ファミリーファンド方式とは、投資家の皆様からお預かりした資金をまとめてベビーファンドとし、その資金をマザーファンドに投資することにより、その実質的な運用をマザーファンドにて行う仕組みです。マザーファンドのほかに、債券等に直接投資する場合があります。

## 委託会社の概況

名称：アセットマネジメントOne株式会社

本店の所在の場所：東京都千代田区丸の内一丁目8番2号

## 資本金の額

20億円（2019年7月31日現在）

## 委託会社の沿革

- |            |   |
|------------|---|
| 1985年7月1日  | 会社設立  |
| 1998年3月31日 | 「証券投資信託法」に基づく証券投資信託の委託会社の免許取得   |
| 1998年12月1日 | 証券投資信託法の改正に伴う証券投資信託委託業のみなし認可  |
| 1999年10月1日 | 第一ライフ投信投資顧問株式会社を存続会社として興銀エヌダブリュ・アセットマネジメント株式会社および日本興業投信株式会社と合併し、社名を興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社とする。 |
| 2008年1月1日  | 「興銀第一ライフ・アセットマネジメント株式会社」から「DIAMアセットマネジメント株式会社」に商号変更   |
| 2016年10月1日 | DIAMアセットマネジメント株式会社、みずほ投信投資顧問株式会社、新光投信株式会社、みずほ信託銀行株式会社（資産運用部門）が統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更     |

## 大株主の状況

(2019年7月31日現在)

株主名	住所	所有株数	所有比率
株式会社みずほフィナンシャルグループ	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	28,000株 <sup>1</sup>	70.0% <sup>2</sup>
第一生命ホールディングス株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	12,000株	30.0% <sup>2</sup>

1：A種種類株式（15,510株）を含みます。

2：普通株式のみの場合の所有比率は、株式会社みずほフィナンシャルグループ51.0%、第一生命ホールディングス株式会社49.0%

## 2【投資方針】

### (1)【投資方針】

#### 基本方針

各ファンドは、信託財産の中・長期的な成長を目指します。

#### 運用方法

##### 1．主要投資対象

LA USインカムマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、債券等へ直接投資する場合もあります。

##### 2．投資態度

a．主としてLA USインカムマザーファンド受益証券に投資し、信託財産の中・長期的な成長をめざして運用を行います。

主として、米国の債券市場3セクター（高格付債<sup>1</sup>・株式関連債<sup>2</sup>・ハイイールド債<sup>3</sup>）に分散投資します。

マクロ経済分析・景気サイクル局面分析等を通じて経済の大きなトレンドを捉え、様々な景気・金利局面に応じて米国の債券市場3セクターの相対価値を判断、これらを効果的に組み合わせることで中長期的な成長を目指します。

(主要投資対象とする3つのセクター)

3つのセクター	
高格付債	国債、政府機関債、モーゲージ証券等、債券の元本や利息の支払いの確実性が高いものとして、格付会社から投資適格の格付 <sup>4</sup> を付与された債券のことをいいます。
株式関連債	転換社債等、株価との連動性が高い債券です。
ハイイールド債	事業会社等の発行する債券のうち、投資適格未滿の格付(投機的格付)を付与されているもの等、高格付債に比べ信用度は低いが高い利回りで流通・発行されている債券です。

1 高格付債とは、投資適格格付を付与されている債券で、主に米国の国債、モーゲージ証券、投資適格格付の社債等がこれにあたります。モーゲージ証券とはモーゲージ(不動産抵当貸付債権)を裏付けに発行される証券です。一般に高格付債は信用リスクが低く、流動性も高いといえますが、社債・モーゲージ証券等は高格付であっても国債等に比べて流動性は劣ります。

2 株式関連債とは、転換社債(わが国の法令上は新株予約権付社債に区分されます。以下同じ。)や転換優先株式等を指します。これらには普通株式等への転換権が付与されているため、その価格は金利変動等による通常の債券としての価格変動のほか、株式の価格を反映して変動します。

3 ハイイールド債とは、事業会社の発行者(発行体)が発行する債券のうち、投機的格付を付与されているもの、および格付を付与されていないがそれらと同等と判断される債券をいいます。

一般に、債券の利息及び元本の支払いは、発行体、あるいは債券の構造上の返済能力に依存すると考えられます。ハイイールド債はこれらの返済能力が上位格付の債券に比べて相対的に低いと考えられ、かつ多くの場合無担保で発行されています。したがって、市場においても通常、上位格付の債券に比べてより高い利回りで発行され流通しています。

ハイイールド債の市場価格は、他の債券と同様、金利変動等の種々の影響を受けますが、上位格付の債券と比べ、当該債券及びその発行体に関わる信用状況の変化の影響を、より大きく受ける可能性があります。

- 4 格付とは、債券の元本や利息の支払いの確実性の度合いを示すものであり、S&P社やムーディーズ社などの格付会社によって格付けされる債券の信用度で、上位4つの格付であるBBB / Baa以上の格付(投資適格格付)を付与されている債券を高格付債、BB / Ba以下の格付(投機的格付)を付与されている債券をハイイールド債といたします。

格付	S&P社の場合	ムーディーズ社の場合
高い	AAA	Aaa
	AA	Aa
	A	A
	BBB	Baa
	BB	Ba
	B	B
	CCC	Caa
	CC	Ca
	C	C
低い	D	-

高格付債

ハイイールド債

各ファンドは格付のない債券に投資することもあります。

通常の状態では、高格付債、株式関連債、ハイイールド債への投資比率を高位に保つことを基本とします。ただし、投資環境に応じて基準価額の変動リスク低減のため必要と判断したとき、あるいはファンドの資金状況や一部解約への対応等のため必要と判断したときは、これらへの投資に代わり、一時的に短期金融商品等での運用を行うことがあります。

- b . Aコースは、実質組入 外貨建資産については、原則として為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図ることを基本とします。

- ・ 為替ヘッジを行うに当たりヘッジコスト(為替ヘッジを行う通貨の金利と円の金利の差)がかかります。

Bコースは、実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

- ・ 為替変動の影響を直接的に受け、円高局面ではその資産価値を大きく減少させる可能性があります。

「実質組入」とは、投資対象である当該資産につき、各ファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該資産のうち各ファンドの信託財産に属するとみなした額との合計額をいいます。(以下同じ。)

《ご参考》為替ヘッジとヘッジコストについて

為替ヘッジとは、外貨建資産へ投資する場合に、外国為替の売予約や先物取引等を利用することによって、為替変動リスクを低減することをいいます。

通常、為替ヘッジを行う通貨の金利が円の金利より高い場合は、金利差分のヘッジコストがかかります。

米ドル建ての外貨建資産に対して為替ヘッジを行う際に、米ドルの金利が日本円の金利より高い場合、日米の金利差がヘッジコストとなります。

日本の金利<米国の金利の場合



金利差分がヘッジコストとなり、基準価額の下落要因となります。

為替ヘッジは、通常は為替予約取引を利用して行います。為替予約取引の詳細については、後記「(5) 投資制限 a. 約款で定める投資制限 外国為替予約」をご参照ください。

c. 市場動向や資金動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

d. マザーファンドの運用は、効率化を図るため、運用指図に関する権限を、ロード・アベット社に委託します。

マザーファンドにおける外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

#### ファンドの投資プロセス

各ファンドは、主としてL A U S インカムマザーファンド受益証券への投資を通じて、米国の国債、アセットバック証券等の高格付債や転換社債等の株式関連債およびハイイールド債に投資を行います。なお、マザーファンドにおける投資は、ロード・アベット社により以下のプロセスのもとで行われます。

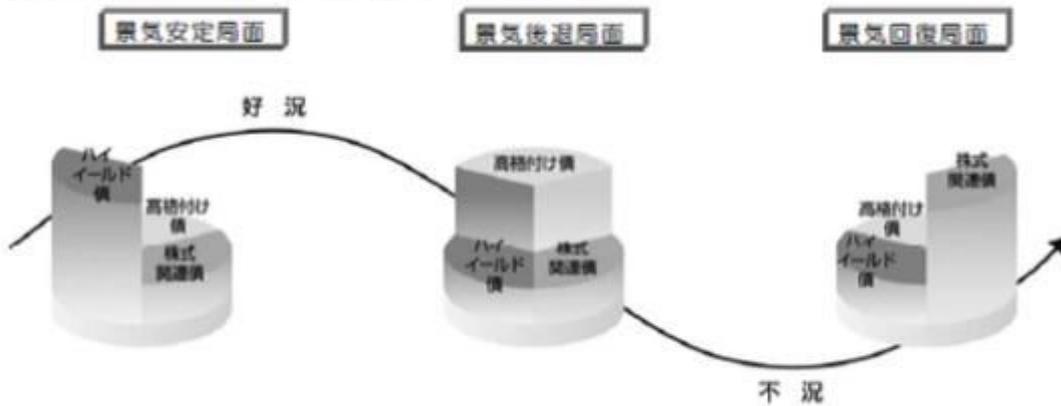
#### <マザーファンドの投資プロセス>

米国の債券市場は高格付債、株式関連債及びハイイールド債の3つのセクターに分けることができます。各セクターは、様々な景気・金利局面により、それぞれ異なる動きをします。こうした3つのセクターを効果的に組合せ、安定的なリターンの確保を目指します。

## 投資プロセス



## 景気局面と3つのセクターの組み合わせ（概念図）



## 3つのセクターの特性と銘柄選定

ハイイールド債	高格付け債	株式関連債
高利回りのハイイールド債への投資妙味が高まる局面とは、景気の安定的な成長が見込まれ、債券発行企業の信用リスクが低下するような局面と考えます。	高格付け債への投資妙味が高まる局面とは、景気後退局面すなわちインフレが低下し信用リスクが増大し金利低下が期待できるような局面と考えます。	株式関連債への投資妙味が高まる局面とは、投資対象企業の業績成長期待から株価が上昇しやすくなる不況からの回復局面と考えます。
定量・定性分析を通じ割安と判断される債券に投資します。	景気・金利の大きな局面を踏まえ、うえて割安性を重視しアクティブに投資します。	マクロ経済・産業分析を踏まえ、定量・定性分析を通じ割安と判断される債券に投資します。
※ 上記は当該3つのセクターの特性を説明するものであり、実際の投資局面での投資等を約束または保証するものではありません。		

株式関連債およびハイイールド債への投資にあたっては、企業調査およびクレジット分析により投資機会を捉え、また、分散投資によりリスクの低減を図ることを基本とします。

株式への投資（転換社債等の転換等により取得するものを含みます。（以下同じ。））を行うことがあります。

組入債券がデフォルト（債務不履行）に陥った場合、原則として速やかに売却することを基本とします。

CCC（トリプルシー）/Caa（シーダブルエー）以下の格付（同等とみなされるものを含む）の株式関連債及びハイイールド債への投資は、合計で信託財産の純資産総額の20%以内とすることを原則とします。

同一企業の発行する株式関連債、ハイイールド債への投資は、合計で信託財産の純資産総額の10%以内とすることを原則とします。

米国以外の発行体が発行する米ドル建の株式関連債への投資は、投資する株式関連債全体の10%以内とすることを原則とします。なお、投資に際しては、その発行する国の問題（事情）よりも、その発行企業の信用を重視するものとします。

米国以外の発行体が発行する米ドル建のハイイールド債への投資は、投資するハイイールド債全体の10%以内とすることを原則とします。なお、投資に際しては、その発行する国の問題（事情）よりも、その発行企業の信用を重視するものとします。

注)上記の投資制限は、市場環境の動向等に応じて変更される場合があります。

<ロード・アベット社（Lord, Abnett & Co. LLC）について>

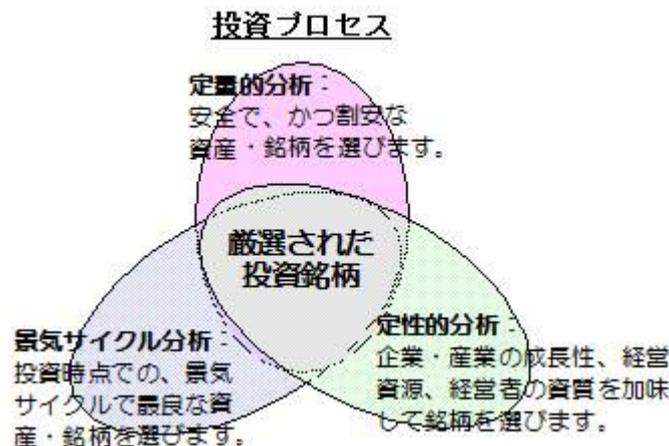
設立：1929年

所在地：米国ニュージャージー州ジャージーシティ市ハドソン通り90番地

運用資産：約1,854億米ドル（2019年6月末日現在）

米国の独立系資産運用会社で、株式から債券まで多様な投資信託を提供しています。

マザーファンドの投資プロセスは、ロード・アベット社の米国での永年にわたる運用実績に裏付けられた手法に基づいております。短期的な市場の変動に左右されることなく、一貫した投資手法を徹底し、中長期的に高いリターンの達成を目指しています。



\* 上記のプロセスは、今後変更される場合があります。

## （２）【投資対象】

### 有価証券の指図範囲

委託会社は、信託金を、主として、アセットマネジメントOne株式会社を委託会社とし、みずほ信託銀行株式会社を受託会社として締結されたLA USインカムマザーファンドの受益証券および次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除きます。）に投資することを指図します。

1. 株券または新株引受権証書
2. 国債証券
3. 地方債証券
4. 特別の法律により法人の発行する債券
5. 社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券（以下「分離型新株引受権付社債券」といいます。）の新株引受権証券を除きます。）
6. コマーシャル・ペーパー
7. 新株引受権証券（分離型新株引受権付社債券の新株引受権証券を含みます。以下同じ。）および新株予約権証券（両者および8.において同様の性質を有するものを総称して「新株引受権証券等」といいます。）
8. 外国または外国の者の発行する証券または証書で前記1.から7.の証券または証書の性質を有するもの
9. 投資信託または外国投資信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第10号で定めるものをいいます。）

10. 投資証券または外国投資証券(金融商品取引法第2条第1項第11号で定めるものをいいます。)
  11. 外国貸付債権信託受益証券(金融商品取引法第2条第1項第18号で定めるものをいいます。)
  12. 外国法人が発行する譲渡性預金証書
  13. 指定金銭信託の受益証券(金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。)
  14. 抵当証券(金融商品取引法第2条第1項第16号で定めるものをいいます。)
  15. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に表示されるべきもの
- なお、前記1.の証券または証書および前記8.の証券または証書のうち前記1.の証券または証書の性質を有するものを以下「株式」といい、前記2.から5.までの証券および前記8.の証券または証書のうち前記2.から5.までの証券の性質を有するものを以下「公社債」といいます。

#### 金融商品の指図範囲

委託会社は、信託金を前記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品(金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。)により運用することを指図することができます。また、前記 の規定にかかわらず、この信託の設定、解約、償還、投資環境の変動等への対応等、委託会社が運用上必要と認めるときには、委託会社は、信託金を以下に掲げる金融商品により運用することの指図ができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託(金融商品取引法第2条第1項第14号に規定する受益証券発行信託を除きます。)
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形
5. 貸付債権信託受益権であって金融商品取引法第2条第2項第1号で定めるもの

#### その他の投資対象

##### 1. 有価証券先物取引等

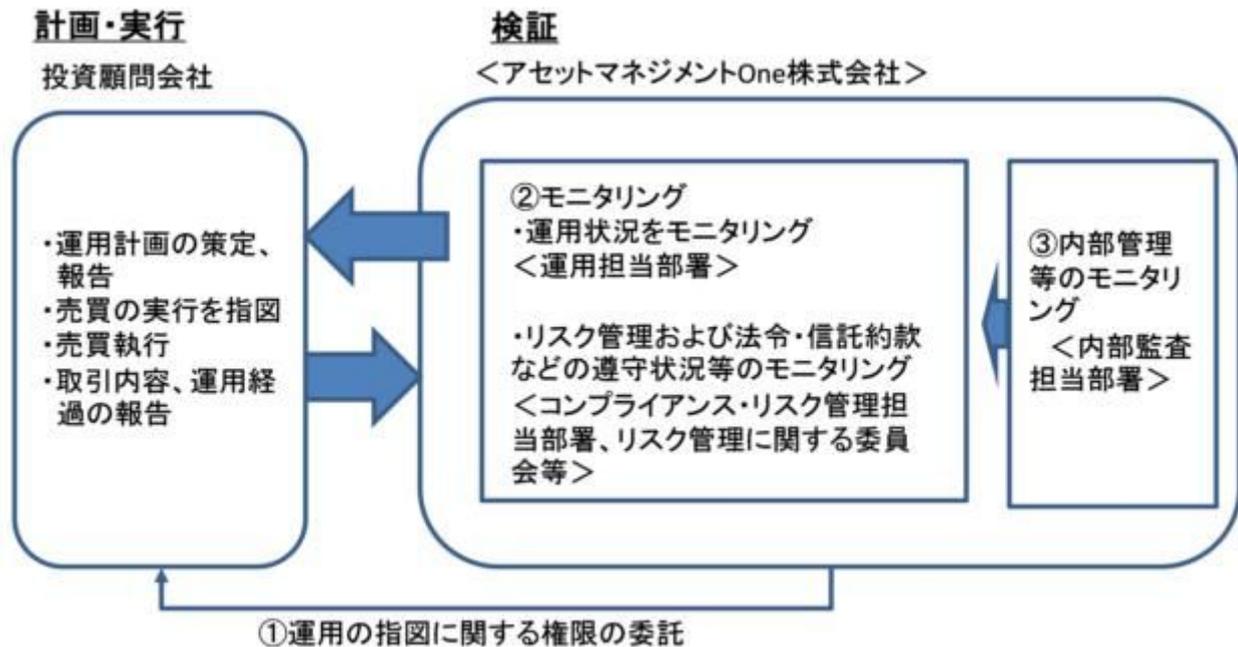
有価証券等の価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、国内において行われる有価証券先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号イに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券指数等先物取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ロに掲げるものをいいます。以下同じ。)、有価証券オプション取引(金融商品取引法第28条第8項第3号ハに掲げるものをいいます。以下同じ。)、通貨に係る先物取引、通貨に係る選択権取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引ならびに外国の市場における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、通貨に係る先物取引、通貨に係る先物オプション取引、金利に係る先物取引および金利に係るオプション取引と類似の取引(以下「有価証券先物取引等」といいます。)を行うことができます。

##### 2. スワップ取引、金利先渡取引および為替先物取引

信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクおよび為替変動リスクを回避するため、異なった通貨、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定条件のもとに交換する取引(以下「スワップ取引」といいます。)および金利先渡取引ならびに為替先渡取引を行うことができます。

## (3) 【運用体制】

## a. ファンドの運用体制



## 運用の指図に関する権限の委託

各ファンドが主要投資対象とするL A U Sインカムマザーファンドは、ロード・アベット社に運用指図に関する権限を委託します。

ロード・アベット社は外部委託契約に基づいて運用計画を策定・報告し、運用指図および売買執行・管理を行います。

## モニタリング

委託会社では、各運用担当者が運用の委託先である投資顧問会社の運用状況をモニタリングし、必要に応じて対応を指示します。

運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署（60～70人程度）は、運用に関するパフォーマンス測定、リスク管理および法令・信託約款などの遵守状況等のモニタリングを実施し、必要に応じて対応を指示します。

定期的に行われるリスク管理に関する委員会等において運用リスク管理状況、運用実績、法令・信託約款などの遵守状況等について検証・報告を行います。

## 内部管理等のモニタリング

内部監査担当部署（10～20人程度）が運用、管理等に関する業務執行の適正性・妥当性・効率性等の観点からモニタリングを実施します。

上記のほか、Aコースの為替ヘッジは、委託会社が為替予約取引等の指図を直接行います。為替ヘッジの方針は、信託約款の定めにしたがい、フルヘッジの状態を基本とします。

## b. ファンドの関係法人に関する管理

ファンドの関係法人である受託会社・投資顧問会社に対して、その業務に関する委託会社の管理担当部署は、内部統制に関する外部監査人による報告書等の定期的な提出を求め、必要に応じて具体的な事項に

関するヒアリングを行う等の方法により、適切な業務執行体制にあることを確認します。

また、投資顧問会社に対しては、運用の外部委託管理に関する社内規程を設け、経営陣・運用担当者との面談を含めた、委託継続にかかる点検(デューデリジェンス)を定期的に行います。

#### c. 運用体制に関する社内規則

運用体制に関する社内規則として運用管理規程および職務責任権限規程等を設けており、運用担当者の任務と権限の範囲を明示するほか、各投資対象の取り扱いに関して基準を設け、ファンドの商品性に則った適切な運用の実現を図ります。

また、売買執行、投資信託財産管理および法令遵守チェック等に関する各々の規程・内規を定めています。

運用体制は2019年7月31日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

上記体制は、マザーファンドを通じた実質的な運用体制を記載しております。

#### <ロード・アベット社の運用体制>

ロード・アベット社は、投資運用委託契約中の運用ガイドライン等に則り、個別銘柄選択などの投資判断およびこれに付随して発生するトレーディングを行います。当社の運用は、短期的な市場の変動に左右されることなく、一貫した投資手法を徹底することにより、中長期的に高いリターンの達成を目指すことが特徴であり、運用プロダクト毎のポートフォリオマネージャーが、それぞれ独自のスタイルに基づいて運用を行います。担当ポートフォリオマネージャーは、運用対象資産を担当するリサーチアナリストからの情報に基づき運用を行います。また、他のポートフォリオマネージャーやリサーチアナリストのリサーチ情報を活用します。

当社の運用評価は、運用部門から独立したリスク管理部門が、月次でリスク・リターン分析を行います。また、四半期毎に開催される主要パートナーによるレビューにおいて、運用審査が行われます。法務部門およびコンプライアンス部門は、ポートフォリオに関する監査・ガイドラインチェック、売買状況チェック(インサイダー・トレーディング、個別銘柄組入れ比率、投資対象国等のチェック)を実施します。

ロード・アベット社では、内部監査は通常の業務プロセスの中で継続的に行います。また、チーフ・コンプライアンス・オフィサーが、運用、トレーディング、計理、コンプライアンスの各部署を、諸規定、コンプライアンス・ポリシーの観点から随時管理監督します。

なお、上記の運用体制および組織の名称等については、変更になることがあります。

#### (4)【分配方針】

##### 収益分配方針

毎決算時(原則として1月30日および7月30日。ただし、休業日の場合は翌日以降の最初の営業日)に、原則として次の通り収益分配を行います。

1. 分配対象額の範囲は、配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額とし、その中から運用実績に応じて每期分配を行う予定です。

分配対象額が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。

2. 分配に充てなかった収益については、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

将来の収益分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

#### 収益分配金の支払い

1. 収益分配金は、原則として毎計算期間終了日から起算して5営業日までに販売会社において支払いが開始されます。
2. 自動けいぞく投資約款に基づく契約に基づいて収益分配金を再投資することにより増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とし、)に対し、お支払いします。

#### (5)【投資制限】

##### a. 約款で定める投資制限

株式および新株引受権証券等(約款第18条、第19条および第20条)

1. 委託会社は、信託財産に属する株式への実質投資割合が、信託財産の純資産総額の100分の30を超えることとなる投資の指図はしません。  
「実質投資割合」とは、投資対象である当該資産につき、各ファンドの信託財産に属する当該資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属する当該資産のうち各ファンドの信託財産に属するとみなした額との合計額の各ファンドの信託財産の純資産総額に対する割合をいいます。(以下同じ。)
2. 委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の株式への実質投資割合が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図をしません。
3. 委託会社が投資することを指図する株式および新株引受権証券等は、証券取引所(「証券取引所」とは、金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号口に規定する外国金融商品市場(以下「取引所」といいます。))のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行う市場および当該市場を開設するものをいいます。以下同じ。)に上場(上場予定を含みます。)されている株式の発行会社の発行するもの、証券取引所に準ずる市場において取引されている株式の発行会社の発行するものとします。ただし、株主割当または社債権者割当により取得する株式および新株引受権証券等についてはこの限りではありません。

##### 転換社債等(約款第25条)

委託会社は、信託財産に属する同一銘柄の転換社債、ならびに新株予約権付社債のうち会社法第236条第1項第3号の財産が当該新株予約権付社債についての社債であって当該社債と当該新株予約権がそれぞれ単独で存在し得ないことをあらかじめ明確にしているもの(以下、会社法施行前の旧商法第341条ノ3第1項第7号および第8号の定めがある新株予約権付社債を含め「転換社債型新株予約権付社債」といいます。(両者および前記(2)投資対象 有価証券の指図範囲8.において同様の性質を有するものを総称して「転換社債等」といいます。))への実質投資割合が、信託財産の純資産総額の100分の10を超えることとなる投資の指図はしません。

##### 外貨建資産(約款 運用の基本方針 (3) 運用制限、約款第27条)

外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。ただし、外貨建有価証券への投資については、わが国の国際収支上の理由等により特に必要と認められる場合には、制約されることがあります。

#### 外国為替予約(約款第28条)

委託会社は、信託財産に属する外貨建資産とマザーファンドの信託財産に属する外貨建資産のうち信託財産に属するとみなした額（信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。）との合計額について、当該外貨建資産の為替ヘッジのため、外国為替の売買の予約を指図することができます。

ただしBコースは原則として為替ヘッジは行いません。

#### 信用取引（約款第21条）

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信用取引により株券を売付けることの指図をすることができます。なお、当該売付けの決済については、株券の引き渡しまたは買い戻しにより行うことの指図をすることができるものとします。
2. 前記1.の信用取引の指図は、次に掲げる有価証券の発行会社の発行する株券について行うことができるものとし、かつ次に掲げる株券数の合計数を超えないものとします。
  - a. 信託財産に属する株券および新株引受権証券の権利行使により取得する株券
  - b. 株式分割により取得する株券
  - c. 有償増資により取得する株券
  - d. 売り出しにより取得する株券
  - e. 信託財産に属する転換社債の転換請求および新株予約権（転換社債型新株予約権付社債の新株予約権に限ります。）の行使により取得可能な株券
  - f. 信託財産に属する新株引受権証券および新株引受権付社債券の新株引受権の行使、または信託財産に属する新株予約権証券および新株予約権付社債券の新株予約権（前記e.に定めるものを除きます。）の行使により取得可能な株券

#### 信用リスク集中回避のための投資制限(約款第21条の1の2)

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとし、当該比率を超えることとなった場合には、委託会社は、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

#### デリバティブ取引等（約款第21条の2）

委託会社は、デリバティブ取引等（デリバティブ取引とは、金融商品取引法第2条第20項に規定するものをいい、新株予約権証券、新投資口予約権証券またはオプションを表示する証券もしくは証書に係る取引、選択権付債券売買および商品投資等取引（投資信託及び投資法人に関する法律施行令第3条第10号に規定するものをいいます。）を含みます。以下「デリバティブ取引等」といいます（ただし、この信託において取引可能なものに限ります。以下同じ。）。）について、一般社団法人投資信託協会の規則に定める合理的な方法により算出した額が信託財産の純資産総額を超えることとなる投資の指図をしません。

#### 有価証券先物取引等(約款第22条)

1. 委託会社は、信託財産が運用対象とする有価証券の価格変動リスクを回避するため、わが国の証券取引所における有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引および有価証券オプション取引ならびに

外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。なお、選択権取引はオプション取引に含めるものとします(以下同じ。)

- a. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする有価証券(以下「ヘッジ対象有価証券」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
- b. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジ対象有価証券の組入可能額(組入ヘッジ対象有価証券を差引いた額)に信託財産が限月までに受取る組入公社債、組入外国貸付債権信託受益証券、組入貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額を限度とし、且つ信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに前記(2)投資対象 金融商品の指図範囲1. から4. に掲げる金融商品で運用している額の範囲内とします。
- c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、この で規定する全オプション取引に係る支払プレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

2. 委託会社は、信託財産に属する資産の為替変動リスクを回避するため、わが国の取引所における通貨に係る先物取引ならびに外国の取引所における通貨に係る先物取引および先物オプション取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

- a. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の売り予約と合わせてヘッジの対象とする外貨建資産の時価総額とマザーファンドの信託財産に属するヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額のうち信託財産に属するとみなした額(信託財産に属するマザーファンドの時価総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占めるヘッジ対象とする外貨建資産の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。)との合計額の範囲内とします。
- b. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、為替の買い予約と合わせて、外貨建有価証券の買付代金等実需の範囲内とします。
- c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払プレミアム額の合計額が取引時点の保有外貨建資産の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つこの で規定する全オプション取引に係る支払プレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

3. 委託会社は、信託財産に属する資産の価格変動リスクを回避するため、わが国の取引所における金利に係る先物取引およびオプション取引ならびに外国の取引所におけるこれらの取引と類似の取引を次の範囲で行うことの指図をすることができます。

- a. 先物取引の売建およびコール・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、ヘッジの対象とする金利商品(信託財産が1年以内に受取る組入有価証券の利払金および償還金等ならびに前記(2)投資対象 金融商品の指図範囲1. から4. に掲げる金融商品で運用されているものをいい、以下「ヘッジ対象金利商品」といいます。)の時価総額の範囲内とします。
- b. 先物取引の買建およびプット・オプションの売付の指図は、建玉の合計額が、信託財産が限月までに受取る組入有価証券に係る利払金および償還金等ならびに前記(2)投資対象 金融商品の指図範囲1. から4. に掲げる金融商品で運用している額(以下この b.において「金融商品運用額等」といいます。)の範囲内とします。ただし、ヘッジ対象金利商品が外貨建で、信託財産の外貨建資産組入可能額(約款に定める組入可能額から保有外貨建資産の時価総額を差引いた額。以下同じ。)に信託財産が限月までに受取る外貨建組入公社債および組入外国貸付債権信託受益証券ならびに組入外貨建貸付債権信託受益権の利払金および償還金を加えた額が当該金融商品運用額等の額より少ない場合には、外貨建資産組入可能額に信託財産が限月までに受取る外貨建組入有価証券に係る利

払金および償還金等を加えた額を限度とします。

- c. コール・オプションおよびプット・オプションの買付の指図は、支払プレミアム額の合計額が取引時点のヘッジ対象金利商品の時価総額の5%を上回らない範囲内とし、且つこの で規定する全オプション取引に係る支払プレミアム額の合計額が取引時点の信託財産の純資産総額の5%を上回らない範囲内とします。

#### スワップ取引(約款第23条)

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用ならびに価格変動リスクを回避するため、異なった受取金利または異なった受取金利とその元本を一定の条件のもとに交換する取引(「スワップ取引」といいます。)を行うことの指図をすることができます。
2. スワップ取引の指図にあたっては、当該取引の契約期限が、原則として各ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約が可能なものについてはこの限りではありません。
3. スワップ取引の指図にあたっては、当該信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係るスワップ契約の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「スワップ取引の想定元本の合計額」といいます。以下この3.において同じ。)が、信託財産の純資産総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記純資産総額が減少して、スワップ取引の想定元本の合計額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当するスワップ取引の一部の解約を指図するものとします。
4. 前記3.においてマザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係るスワップ取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
5. スワップ取引の評価は、当該取引契約の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
6. 委託会社は、スワップ取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

#### 金利先渡取引および為替先渡取引(約款第24条)

1. 委託会社は、信託財産に属する資産の効率的な運用に資するため、ならびに価格変動リスクを回避するため、金利先渡取引および為替先渡取引を行うことの指図をすることができます。
2. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該取引の決済日が原則として各ファンドの信託期間を超えないものとします。ただし、当該取引が当該信託期間内で全部解約可能なものについてはこの限りではありません。
3. 金利先渡取引および為替先渡取引の指図にあたっては、当該信託財産に係る金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の総額とマザーファンドの信託財産に係る金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額との合計額(以下「金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の合計額」といいます。以下この3.において同じ。)が、ヘッジ対象金利商品の時価総額を超えないものとします。なお、信託財産の一部解約等の事由により、上記時価総額が減少して、金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の合計額がヘッジ対象金利商品の時価総額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する金利先渡取引および為替先

渡取引の一部の解約を指図するものとします。

4. 前記3.においてマザーファンドの信託財産に係る金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の総額のうち信託財産に属するとみなした額とは、マザーファンドの信託財産に係る金利先渡取引および為替先渡取引の想定元本の総額にマザーファンドの信託財産の純資産総額に占める信託財産に属するマザーファンドの受益証券の時価総額の割合を乗じて得た額をいいます。
5. 金利先渡取引および為替先渡取引の評価は、当該取引の相手方が市場実勢金利等をもとに算出した価額で評価するものとします。
6. 委託会社は、金利先渡取引および為替先渡取引を行うにあたり担保の提供あるいは受入れが必要と認めるときは、担保の提供あるいは受入れの指図を行うものとします。

有価証券の貸付(約款第26条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用に資するため、信託財産に属する株式および公社債を次の範囲内で貸付の指図をすることができます。
  - a. 株式の貸付は、貸付時点において、貸付株式の時価合計額が、信託財産で保有する株式の時価評価額を超えないものとします。
  - b. 公社債の貸付は、貸付時点において、貸付公社債の額面金額の合計額が、信託財産で保有する公社債の額面金額を超えないものとします。
2. 前記1.に定める限度額を超えることとなった場合には、委託会社は速やかに、その超える額に相当する契約の一部の解約を指図するものとします。
3. 委託会社は、有価証券の貸付にあたって必要と認めるときは、担保の受入れの指図を行うものとします。

資金の借入れ(約款第35条)

1. 委託会社は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性に資するため、一部解約に伴う支払資金の手当て(一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。)を目的として、または再投資にかかる収益分配金の手当てを目的として、資金借入れ(コール市場を通じる場合を含みます。)の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行わないものとします。
2. 一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、解約代金および償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行う日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
3. 収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
4. 借入金の利息は信託財産中より支弁します。

b. 法令で定める投資制限

同一の法人の発行する株式の取得割合(投資信託及び投資法人に関する法律第9条)

委託会社は、同一の法人の発行する株式を、運用の指図を行うすべての委託者指図型投資信託につき

投資信託財産として有する当該株式にかかる議決権の総数が、当該株式にかかる議決権の総数に100分の50の率を乗じて得た数を超えることとなる場合においては、信託財産をもって取得することを受託会社に指図しないものとします。

#### <参考> LA USインカムマザーファンドの投資方針および主な投資制限

##### 1. 基本方針

この投資信託は、信託財産の中・長期的な成長を目指します。

##### 2. 運用方法

###### (1) 投資対象

米国の国債、アセットバック証券等の高格付債や転換社債ならびに新株予約権付社債等の株式関連債およびハイイールド債を主要投資対象とします。

###### (2) 投資態度

主として米国の国債、アセットバック証券等の高格付債、転換社債ならびに新株予約権付社債等の株式関連債およびハイイールド債に投資し、信託財産の中・長期的な成長をめざして運用を行います。

景気や金利の局面に応じ、高格付債、株式関連債、ハイイールド債の効果的な組合せを図ります。

組入債券がデフォルトした場合、速やかに売却することを基本とします。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

運用の効率化を図るため、運用指図に関する権限はロード・アベット社に委託します。

###### (3) 主な投資制限

株式への投資は、信託財産の純資産総額の30%以内とします。

外貨建資産への投資には、制限を設けません。

同一銘柄の株式への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

同一銘柄の転換社債等への投資は、信託財産の純資産総額の10%以下とします。

有価証券先物取引等は約款第15条の範囲で行います。

スワップ取引は約款第16条の範囲で行います。

金利先渡取引および為替先渡取引は約款第17条の範囲で行います。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、一般社団法人投資信託協会規則に従い当該比率以内となるよう調整を行うこととします。

### 3【投資リスク】

#### (1) 各ファンドにおける主として想定されるリスクと収益性に与える影響度合い

- 各ファンドは、主としてLA USインカムマザーファンド受益証券への投資を通じて値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。したがって、元本や一定の投資成果が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被ることがあります。

- ・運用により信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者の皆様に帰属します。
- ・投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ・登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ・投資信託は預貯金とは異なります。
- ・各ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

各ファンドにおいて主として想定されるリスクは以下の通りですが、基準価額の変動要因はこれらに限定されるものではありません。なお、以下のリスクは、主にマザーファンドを通じて各ファンドが行う有価証券等への投資により発生します。

#### 金利変動リスク

金利の上昇（公社債の価格の下落）は、基準価額の下落要因となります。

金利変動リスクとは、金利変動により公社債の価格が下落するリスクをいいます。一般に金利が上昇した場合には、既に発行されて流通している公社債の価格は下落します。金利上昇は、各ファンドが投資する公社債の価格に影響を及ぼし、各ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

なお、各ファンドが投資対象とする公社債のうち、ハイイールド債の価格は、一般的に金利変動より景気や企業業績などに起因する発行体の財務内容や信用状況の変化の影響をより大きく受ける傾向があります。したがって、景気回復局面では、金利上昇による影響を吸収し、債券価格が上昇することもあり、逆に、景気後退局面では、金利が低下しているにもかかわらず、発行体の信用状況の悪化等により、債券価格が下落し、各ファンドの基準価額が下がることもあります。

#### 株価変動リスク

投資する企業の転換社債価格や株価の下落は、基準価額の下落要因となります。

転換社債等の株式関連債は、一般的に不況からの回復局面では、企業収益の回復によりその価値が増加し、景気後退局面では企業収益の悪化によりその価値が減少します。また、発行体の株価の変動により価格が変動することや、株式市場全体の相場変動によって価格が変動することがあります。株式への投資を行っている場合には、投資する企業の株価の下落は、各ファンドの基準価額を下落させる要因となります。

#### 信用リスク

投資する有価証券の発行者の財政難・経営不安・倒産等の発生は、基準価額の下落要因となります。

信用リスクとは、公社債等の発行体が財政難、経営不振、その他の理由により、利息や償還金をあらかじめ決められた条件で支払うことができなくなる（債務不履行）リスクをいいます。一般に債務不履行が生じた場合、またはその可能性が高まった場合には、当該発行体が発行する公社債および短期金融商品（コマーシャル・ペーパー等）の価格は下落します。なお、各ファンドが投資対象とする公社債のうち、ハイイールド債は、信用度が高い高格付債と比較して、相対的に高い利回りを享受することが期待できる一方で、発行体の業績や財務内容等の変化（格付の引き下げ・引き上げ）により、公社債の価格が大きく変動する傾向があり、かつ発行体が債務不履行に陥る可能性も高いと考えられます。各ファンドが投資する公社債等の発行体がこうした状況に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する

要因となります。

#### 為替変動リスク

<Aコース> 為替ヘッジを行っても、円高による影響を完全には排除できません。  
<Bコース> 為替相場の円高は、基準価額の下落要因となります。

為替変動リスクとは、為替変動により外貨建資産の円換算価格が下落するリスクをいいます。Aコースでは、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図りますが、為替ヘッジを行うにあたりヘッジコストがかかります（ヘッジコストとは、為替ヘッジを行う通貨の金利と円の金利の差で、この金利差分収益が減少または増加します）。Bコースでは、原則として為替ヘッジを行わないため、投資対象通貨（主として米ドル）と円との外国為替相場が円高となった場合には、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

#### 流動性リスク

投資資産の市場規模が小さいことなどで希望する価格で売買できない場合は、基準価額の下落要因となります。

流動性リスクとは、有価証券を売却（または購入）しようとする際に、需要（または供給）がないため、有価証券を希望する時期に、希望する価格で売却（または購入）することができなくなるリスクをいいます。一般に規模が小さい市場での売買や、取引量の少ない有価証券の売買にあたっては、流動性リスクへの留意が特に必要とされます。また、一般に市場を取り巻く外部環境の急変があった場合には、市場実勢価格での売買ができなくなる可能性が高まります。各ファンドが投資する公社債等の流動性が損なわれた場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

#### カントリーリスク

投資する国・地域の政治・経済の不安定化等は、基準価額の下落要因となります。

カントリーリスクとは、投資先となっている国（地域）の政治・経済・社会・国際関係等が不安定な状態、あるいは混乱した状態等に陥った場合に、当該国における資産の価値や当該国通貨の価値が下落するリスクをいいます。

各ファンドの投資先となっている国がこうした状態に陥った場合には、各ファンドの基準価額が下落する要因となる可能性があります。

#### <その他>

- ・有価証券の貸付等においては、取引相手先の倒産等による決済不履行リスクを伴います。
- ・各ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。当該方式は、運用の効率化に資するものですが、一方で、各ファンドが主要投資対象とするマザーファンドに対し、他のベビーファンドにより多額の追加設定・一部解約等がなされた場合には、マザーファンドにおける売買ならびに組入比率の変化等により、各ファンドの基準価額や運用が影響を受ける場合があります。
- ・各ファンドは、証券取引所における取引の停止等があるときには、一部解約の実行の請求の受け付けを中止すること、およびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消すことがあります。

#### <収益分配金に関する留意点>

- ・投資信託の分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- ・分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落すること

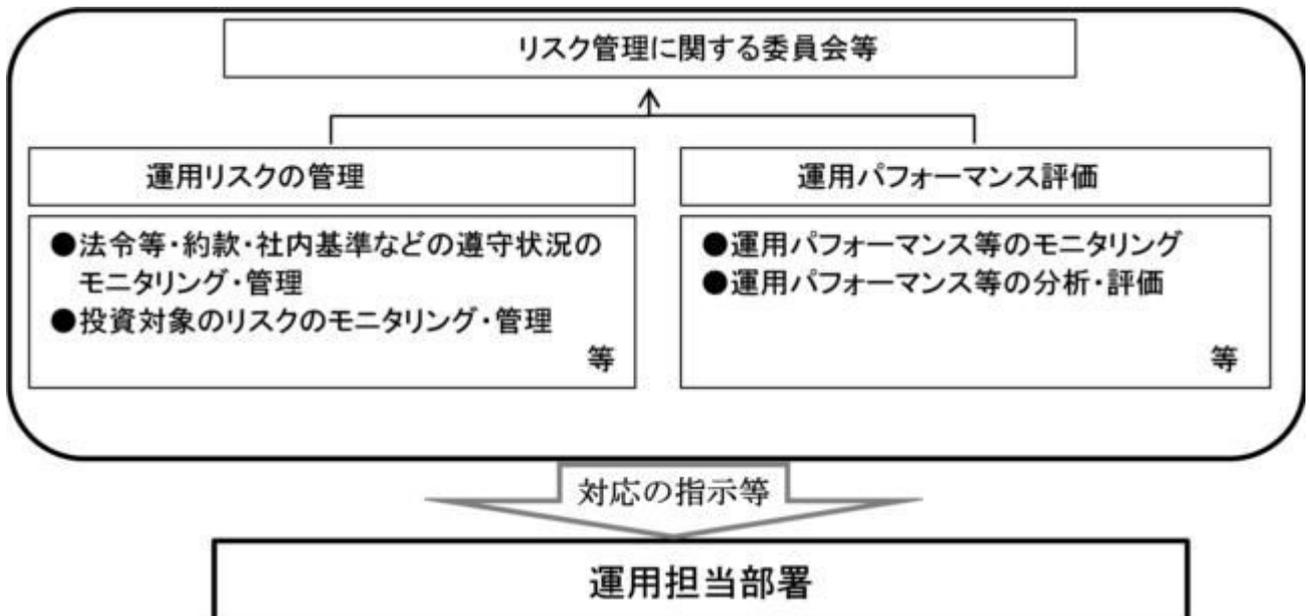
になります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

- ・投資家(受益者)のファンドの取得価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド取得後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

## (2) リスク管理体制

委託会社におけるファンドの投資リスクに対する管理体制については、以下のとおりです。

- ・運用リスクの管理：運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。
- ・運用パフォーマンス評価：運用担当部署から独立したリスク管理担当部署が、ファンドの運用パフォーマンスについて定期的に分析を行い、結果の評価を行います。
- ・リスク管理に関する委員会等：上記のとおり運用リスクの管理状況、運用パフォーマンス評価等の報告を受け、リスク管理に関する委員会等は総合的な見地から運用状況全般の管理・評価を行います。



リスク管理体制は2019年7月31日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

なお、マザーファンドにおいて、委託会社より運用に関する権限の委託を受けたロード・アベット社は、以下の体制によりリスク管理を行います。

運用部門から独立したリスク管理部門が、日次でファンドのリスク分析を行います。

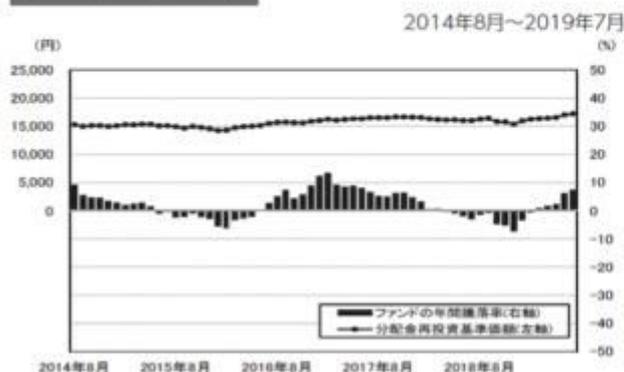
一方、投資ガイドライン、コンプライアンスの抵触状況は、システムの的に管理し、ガイドライン等に抵触する取引が含まれる場合には、運用部門・法務部門・コンプライアンス部門へ連絡を入れ、対応を図ります。

上記のリスク管理体制および組織名称等については、変更になることがあります。

## <参考情報>

### ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

#### A コース



#### B コース



- \*分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算していますので、実際の基準価額とは異なる場合があります。なお、分配金再投資基準価額は、1999年1月4日の各ファンドの基準価額(Aコース 9,829円、Bコース 8,268円)に合わせて指数化しています。(以下同じ。)
- \*年間騰落率(各月末時点について1年前と比較したものは、分配金再投資基準価額をもとに計算していますので、基準価額をもとに計算した騰落率とは異なる場合があります。

### ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



- \*上記は、各ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように、2014年8月～2019年7月の5年間における年間騰落率(各月末時点について1年前と比較したものの)の平均・最大・最小を表示したものです。
- \*各ファンドの年間騰落率は、分配金再投資基準価額をもとに計算していますので、基準価額をもとに計算した騰落率とは異なる場合があります。
- \*代表的な資産クラスは比較対象として記載しているため、各ファンドの投資対象とは限りません。

### 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	[東証株価指数(TOPIX)]は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所(旧東京証券取引所)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、旧東京証券取引所が有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	[MSCIコクサイ・インデックス]は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)	[MSCIエマージング・マーケット・インデックス]は、MSCI Inc.が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
日本国債	NOMURA-BPI国債	[NOMURA-BPI国債]は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	[FTSE世界国債インデックス(除く日本)]は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)	[JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド]は、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(注)海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 4【手数料等及び税金】

### (1)【申込手数料】

申込手数料は、取得申込金額（取得申込口数に発行価格を乗じた額）に、2.2%（税抜2%）を上限に各販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。なお、申込手数料には消費税等相当額が課せられます。

申込手数料については、販売会社にお問い合わせください。

「自動けいぞく投資コース」における収益分配金は、毎計算期末の翌営業日に原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

上記にかかわらず、スイッチング（乗換え）の場合は無手数料となります。また、償還乗換優遇措置等の取扱いを行う販売会社では、一定の条件を満たした場合に申込手数料が割引、または無手数料となる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

< 申込手数料を対価とする役務の内容 >

商品や投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務手続き等にかかる費用の対価

(2) 【換金（解約）手数料】

ありません。

(3) 【信託報酬等】

信託報酬の総額は、計算期間を通じて毎日、信託財産の純資産総額に年1.815%（税抜1.65%）の率を乗じて得た額とします。

その配分（税抜）については、以下の通りとなります。

委託会社	販売会社	受託会社
0.80%	0.75%	0.10%

信託報酬は、毎日計上（ファンドの基準価額に反映）され、毎計算期末または信託終了のとき信託財産中から支弁するものとします。なお、信託報酬にかかる消費税等相当額を、信託報酬支弁の時に信託財産中から支弁します。

$$\text{信託報酬} = \text{運用期間中の基準価額} \times \text{信託報酬率}$$

マザーファンドの投資顧問会社であるロード・アベット社が受ける報酬は運用の対価等として、マザーファンドに投資する各ファンドから委託会社が受ける信託報酬より支払期日毎に支弁するものとし、その報酬額は、各ファンド毎に信託財産の純資産総額に年10,000分の37.5の率を乗じて得た額とします。

< 信託報酬等を対価とする役務の内容 >

委託会社	信託財産の運用、目論見書等各種書類の作成、基準価額の算出等の対価
販売会社	購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価

受託会社	運用財産の保管・管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
------	-------------------------------

#### (4) 【その他の手数料等】

信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産の財務諸表の監査に要する費用および当該費用にかかる消費税等相当額、外国における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息および資金の借入れを行った際の当該借入金の利息は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。なお、信託財産の財務諸表の監査に要する費用は、毎日計上(ファンドの基準価額に反映)され、毎計算期末または信託終了のときに、当該費用にかかる消費税等相当額とともに、信託財産中から支弁します。

各ファンドの組入有価証券の売買時の売買委託手数料、先物・オプション取引等に要する費用およびこれら手数料ならびに費用にかかる消費税等相当額は、受益者の負担とし、信託財産中から支弁します。

上記、 の手数料等(借入金の利息および財務諸表の監査に要する費用を除きます。)については、各ファンドが投資対象とするマザーファンドにおいて発生する場合、マザーファンドの信託財産中から支弁されます。これらはマザーファンドの基準価額に反映されるため、結果として各ファンドの受益者が間接的に負担することとなります。

#### (5) 【課税上の取扱い】

各ファンドは、課税上「株式投資信託」として取扱われます。

##### 個人の受益者に対する課税

##### 収益分配時

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、配当所得として、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率で源泉徴収による申告不要制度が適用されます。なお、確定申告により、申告分離課税または総合課税(配当控除の適用なし)のいずれかを選択することもできます。

詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

##### 解約時および償還時

解約時および償還時の差益(譲渡益)については、譲渡所得として、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率での申告分離課税が適用されます。

原則として確定申告が必要ですが、特定口座(源泉徴収口座)を利用する場合、20.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))および地方税5%)の税率による源泉徴収が行われます。

解約価額および償還価額から取得費用(申込手数料および当該手数料にかかる消費税等に相当する金額を含みます。)を控除した利益。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

##### 損益通算について

解約(換金)時および償還時の差損(譲渡損)については、確定申告を行うことにより上場株式等

(上場株式、上場投資信託(ETF)、上場不動産投資信託(REIT)、公募株式投資信託および特定公社債等(公募公社債投資信託を含みます。))など。以下同じ。)の譲渡益ならびに上場株式等の配当所得および利子所得の金額(配当所得については申告分離課税を選択したものに限り。))との損益通算ならびに3年間の繰越控除の対象とすることができます。また、特定口座(源泉徴収口座)をご利用の場合、その口座内において損益通算を行います(確定申告不要)。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

少額投資非課税制度「愛称：NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「愛称：ジュニアNISA(ジュニアニーサ)」をご利用の場合

NISAおよびジュニアNISAは、上場株式や公募株式投資信託などにかかる非課税制度です。毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。なお、同非課税口座内で少額上場株式等にかかる譲渡損失が生じた場合には、課税上譲渡損失はないものとみなされ、他の口座の上場株式等の譲渡益および上場株式等の配当所得等の金額との損益通算を行うことはできませんので、ご注意ください。

#### 法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに解約時および償還時の個別元本超過額については、15.315%(所得税15.315%(復興特別所得税を含みます。))の税率による源泉徴収が行われます。なお、地方税の源泉徴収は行われません。

買取請求による換金の際の課税については、販売会社にお問い合わせください。

なお、益金不算入制度の適用はありません。

2020年1月1日以降の分配時において、外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

上記は、2019年7月末現在のものです。税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になる場合があります。

課税上の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

#### 個別元本方式について

受益者毎の信託時の受益権の価額等を当該受益者の元本とする個別元本方式は次のとおりです。

##### <個別元本について>

受益者毎の信託時の受益権の価額等(申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する金額は含まれません。)が当該受益者の元本(個別元本)にあたります。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合、個別元本は、当該受益者が追加信託を行うつど当該受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。

ただし、同一ファンドの受益権を複数の販売会社で取得する場合については販売会社毎に個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドの受益権を取得する場合は当該支店等毎に、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」の両コースで同一ファンドの受益権を取得する場合はコース別に個別元本の算出が行われる場合があります。

収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当

該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。(「元本払戻金(特別分配金)」については、下記の<収益分配金の課税について>を参照。)

<収益分配金の課税について>

収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」(受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分)の区分があります。

収益分配の際、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本と同額の場合または当該受益者の個別元本を上回っている場合には、当該収益分配金の全額が普通分配金となり、当該収益分配金落ち後の基準価額が当該受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、当該収益分配金から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が普通分配金となります。

なお、収益分配金に元本払戻金(特別分配金)が含まれる場合、収益分配金発生時にその個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の当該受益者の個別元本となります。

税法が改正された場合等は、上記内容が変更になることがあります。

5【運用状況】

以下の運用状況は令和1年7月31日現在です。

投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。なお、小数点第3位を切捨てており、端数調整は行っておりません。

(1)【投資状況】

MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	837,029,398	98.11
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		16,102,992	1.88
合計(純資産総額)		853,132,390	100.00

MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
親投資信託受益証券	日本	841,465,368	98.24
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		14,996,884	1.75
合計(純資産総額)		856,462,252	100.00

(参考) LA USインカムマザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
-------	------	---------	---------

株式	アメリカ	152,072,688	2.91
新株予約権証券	アメリカ	1,125	0.00
新株予約権付社債券	アメリカ	783,005,958	14.98
国債証券	バミューダ	24,348,940	0.46
	ケイマン諸島	21,995,254	0.42
	小計	46,344,194	0.88
社債券	アメリカ	3,622,520,572	69.33
	カナダ	89,842,234	1.71
	アイルランド	84,111,853	1.60
	バミューダ	34,299,116	0.65
	ルクセンブルグ	34,168,367	0.65
	オランダ	26,560,850	0.50
	ケイマン諸島	24,269,682	0.46
	日本	22,156,780	0.42
	ニュージーランド	21,604,715	0.41
	オーストラリア	14,043,031	0.26
	リベリア	10,184,413	0.19
	バハマ	8,886,209	0.17
	フィンランド	8,433,180	0.16
	プエルトリコ	7,023,576	0.13
小計	4,008,104,578	76.71	
投資証券	アメリカ	95,092,505	1.82
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		140,237,280	2.68
合計(純資産総額)		5,224,858,328	100.00

## (2) 【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)

## イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	LA USインカムマザーファン ド	203,701,394	4.1221	839,677,516	4.1091	837,029,398	98.11

## ロ. 種類別投資比率

種類	国内/外国	投資比率(%)
親投資信託受益証券	国内	98.11
合計		98.11

## MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）

## イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	日本	親投資信託 受益証券	LA USインカムマザーファン ド	204,780,942	4.1221	844,127,521	4.1091	841,465,368	98.24

## ロ. 種類別投資比率

種類	国内/外国	投資比率(%)
親投資信託受益証券	国内	98.24
合計		98.24

## (参考) LA USインカムマザーファンド

## イ. 評価額上位銘柄明細

順位	国/地域	種類	銘柄名	業種	数量又は 額面総額	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 金額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 金額 (円)	利率 (%)	償還期限	投資 比率 (%)
1	アメリカ	新株予約 権付社債 券	EVERBRIDGE INC 1.5%		505,000	32,745.13	165,362,949	33,311.81	168,224,669	1.5	2022年11 月 1日	3.21
2	アメリカ	社債券	AMAZON.COM INC 5.2%		1,115,000	12,636.82	140,900,544	12,629.63	140,820,475	5.2	2025年12 月 3日	2.69
3	アメリカ	新株予約 権付社債 券	ADVANCED MICRO 2.125%		300,000	46,165.05	138,495,174	46,587.34	139,762,025	2.125	2026年 9 月 1日	2.67
4	アメリカ	社債券	XILINX INC 2.95%		968,000	11,030.45	106,774,835	11,012.05	106,596,688	2.95	2024年 6 月 1日	2.04
5	アメリカ	新株予約 権付社債 券	REPLIGEN CORP 2.125%		300,000	32,411.03	97,233,115	32,364.31	97,092,937	2.125	2021年 6 月 1日	1.85
6	アメリカ	投資証券	CROWN CASTLE INTERNATIONAL 6.875%(PFD)		730	128,542.84	93,836,279	130,263.70	95,092,505			1.82
7	アメリカ	株式	DANAHER CORP 4.75% (PFD)	ヘル ス ケ ア 機 器 ・ サ ー ビ ス	749	123,958.24	92,844,722	124,788.24	93,466,399			1.78
8	アメリカ	新株予約 権付社債 券	AEROJET ROCKET 2.25%		450,000	18,900.58	85,052,654	18,980.79	85,413,594	2.25	2023年12 月15日	1.63
9	アメリカ	新株予約 権付社債 券	SERVICENOW INC 0%		367,000	23,262.34	85,372,803	22,880.67	83,972,060	0	2022年 6 月 1日	1.60
10	アメリカ	社債券	HCA INC 5.5%		700,000	11,762.93	82,340,516	11,638.51	81,469,614	5.5	2047年 6 月15日	1.55
11	アメリカ	社債券	CCO HLDGS LLC 5.75%		600,000	11,135.60	66,813,600	11,108.44	66,650,640	5.75	2024年 1 月15日	1.27
12	アメリカ	社債券	VALEANT PHARMA 8.5%		528,000	12,004.72	63,384,922	12,004.72	63,384,922	8.5	2027年 1 月31日	1.21

13	アメリカ	新株予約権付社債券	TWITTER INC 1%		574,000	10,631.46	61,024,620	10,643.17	61,091,843	1	2021年9月15日	1.16
14	アメリカ	社債券	DISH DBS CORP 7.75%		509,000	10,976.00	55,867,881	10,701.04	54,468,294	7.75	2026年7月1日	1.04
15	アメリカ	社債券	DAIMLER FIN 2.25%		500,000	10,848.97	54,244,875	10,849.40	54,247,048	2.25	2020年3月2日	1.03
16	アメリカ	社債券	SPRINT CAP CORP 6.875%		444,000	12,086.20	53,662,728	11,966.55	53,131,499	6.875	2028年11月15日	1.01
17	アメリカ	社債券	T-MOBILE USA INC 6%		451,000	11,392.64	51,380,817	11,352.88	51,201,489	6	2024年4月15日	0.97
18	アメリカ	新株予約権付社債券	DISH NETWORK 3.375%		500,000	10,595.12	52,975,634	10,130.14	50,650,738	3.375	2026年8月15日	0.96
19	アメリカ	社債券	EDWARDS LIFESCIENCES 4.3%		404,000	11,888.14	48,028,123	11,853.26	47,887,190	4.3	2028年6月15日	0.91
20	アメリカ	社債券	TENET HEALTHCARE 5.125%		440,000	10,874.53	47,847,968	10,836.84	47,682,096	5.125	2025年5月1日	0.91
21	アメリカ	社債券	IFM US COLONIAL 6.45%		400,000	11,199.54	44,798,182	11,199.86	44,799,442	6.45	2021年5月1日	0.85
22	アメリカ	新株予約権付社債券	EXACT SCIENCES 1%		229,000	18,838.17	43,139,423	18,758.54	42,957,063	1	2025年1月15日	0.82
23	アメリカ	新株予約権付社債券	INSULET CORP 1.375%		250,000	16,007.49	40,018,738	16,072.53	40,181,345	1.375	2024年11月15日	0.76
24	アメリカ	社債券	NETFLIX INC 5.5%		333,000	11,529.42	38,392,969	11,610.90	38,664,297	5.5	2022年2月15日	0.74
25	アメリカ	社債券	NAVIENT CORP 6.75%		339,000	11,352.88	38,486,264	11,380.04	38,578,336	6.75	2025年6月25日	0.73
26	アメリカ	社債券	NETFLIX INC 5.875%		321,000	11,892.69	38,175,535	11,868.91	38,099,233	5.875	2025年2月15日	0.72
27	アメリカ	社債券	MORGAN STANLEY 3.125%		315,000	11,042.87	34,785,059	11,027.91	34,737,936	3.125	2026年7月27日	0.66
28	アメリカ	株式	STANLEY BLACK & DECKER 5.375% (PFD)	資本財	3,000	11,434.35	34,303,079	11,447.39	34,342,190			0.65
29	アメリカ	社債券	VFH PARENT LLC 6.75%		300,000	11,217.08	33,651,240	11,189.92	33,569,760	6.75	2022年6月15日	0.64
30	アメリカ	社債券	VERISIGN INC 4.75%		292,000	11,478.10	33,516,079	11,453.88	33,445,337	4.75	2027年7月15日	0.64

## ロ.種類別及び業種別の投資比率

種類	国内/外国	業種	投資比率 (%)
株式	外国	資本財	0.66
		ヘルスケア機器・サービス	1.78
		ソフトウェア・サービス	0.45
新株予約権証券	外国		0.00
新株予約権付社債券	外国		14.98
国債証券	外国		0.88
社債券	国内		0.42
	外国		76.28
投資証券	外国		1.82
合計			97.31

## 【投資不動産物件】

MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）  
該当事項はありません。

MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）  
該当事項はありません。

（参考）LA USインカムマザーファンド  
該当事項はありません。

## 【その他投資資産の主要なもの】

MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）  
  
該当事項はありません。

MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）  
  
該当事項はありません。

（参考）LA USインカムマザーファンド  
  
該当事項はありません。

## （3）【運用実績】

## 【純資産の推移】

MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）

令和1年7月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
	（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第25計算期間末（平成22年 2月 1日）	1,464	1,496	0.8115	0.8295
第26計算期間末（平成22年 7月30日）	1,504	1,536	0.8322	0.8502
第27計算期間末（平成23年 1月31日）	1,323	1,350	0.8733	0.8913
第28計算期間末（平成23年 8月 1日）	1,276	1,302	0.8819	0.8999
第29計算期間末（平成24年 1月30日）	1,109	1,131	0.8741	0.8921
第30計算期間末（平成24年 7月30日）	1,102	1,125	0.8830	0.9010
第31計算期間末（平成25年 1月30日）	1,026	1,046	0.9209	0.9389

第32計算期間末	(平成25年 7月30日)	1,003	1,016	0.9258	0.9378
第33計算期間末	(平成26年 1月30日)	971	983	0.9462	0.9582
第34計算期間末	(平成26年 7月30日)	1,005	1,018	0.9691	0.9811
第35計算期間末	(平成27年 1月30日)	965	978	0.9519	0.9639
第36計算期間末	(平成27年 7月30日)	922	934	0.9383	0.9503
第37計算期間末	(平成28年 2月 1日)	850	862	0.8783	0.8903
第38計算期間末	(平成28年 8月 1日)	899	911	0.9408	0.9528
第39計算期間末	(平成29年 1月30日)	889	900	0.9617	0.9737
第40計算期間末	(平成29年 7月31日)	895	906	0.9778	0.9898
第41計算期間末	(平成30年 1月30日)	862	873	0.9707	0.9827
第42計算期間末	(平成30年 7月30日)	809	819	0.9274	0.9394
第43計算期間末	(平成31年 1月30日)	783	793	0.9052	0.9172
第44計算期間末	(令和 1年 7月30日)	847	857	0.9693	0.9813
	平成30年 7月末日	812		0.9239	
	8月末日	825		0.9396	
	9月末日	827		0.9458	
	10月末日	788		0.9133	
	11月末日	785		0.9097	
	12月末日	767		0.8879	
	平成31年 1月末日	795		0.9093	
	2月末日	808		0.9244	
	3月末日	805		0.9324	
	4月末日	809		0.9355	
	令和 1年 5月末日	817		0.9435	
	6月末日	848		0.9693	
	7月末日	853		0.9683	

(注) 表中の末日とは当該月の最終営業日を指します。

#### MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)

令和1年7月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

期別	純資産総額(百万円)		1口当たり純資産額(円)		
	(分配落)	(分配付)	(分配落)	(分配付)	
第25計算期間末	(平成22年 2月 1日)	1,233	1,268	0.6404	0.6584
第26計算期間末	(平成22年 7月30日)	1,182	1,216	0.6269	0.6449
第27計算期間末	(平成23年 1月31日)	1,071	1,102	0.6206	0.6386
第28計算期間末	(平成23年 8月 1日)	972	1,001	0.5899	0.6079
第29計算期間末	(平成24年 1月30日)	908	937	0.5718	0.5898
第30計算期間末	(平成24年 7月30日)	872	898	0.5852	0.6032
第31計算期間末	(平成25年 1月30日)	962	987	0.7022	0.7202
第32計算期間末	(平成25年 7月30日)	996	1,010	0.7613	0.7713
第33計算期間末	(平成26年 1月30日)	950	962	0.8111	0.8211

第34計算期間末	(平成26年 7月30日)	945	957	0.8315	0.8415
第35計算期間末	(平成27年 1月30日)	1,021	1,036	0.9408	0.9548
第36計算期間末	(平成27年 7月30日)	1,042	1,057	0.9721	0.9861
第37計算期間末	(平成28年 2月 1日)	964	980	0.8887	0.9027
第38計算期間末	(平成28年 8月 1日)	886	902	0.8094	0.8234
第39計算期間末	(平成29年 1月30日)	1,019	1,034	0.9304	0.9444
第40計算期間末	(平成29年 7月31日)	924	938	0.9161	0.9301
第41計算期間末	(平成30年 1月30日)	837	850	0.9040	0.9180
第42計算期間末	(平成30年 7月30日)	818	831	0.8874	0.9014
第43計算期間末	(平成31年 1月30日)	791	804	0.8636	0.8776
第44計算期間末	(令和 1年 7月30日)	851	864	0.9310	0.9450
	平成30年 7月末日	821		0.8833	
	8月末日	834		0.9005	
	9月末日	852		0.9277	
	10月末日	824		0.8958	
	11月末日	820		0.8953	
	12月末日	786		0.8579	
	平成31年 1月末日	799		0.8641	
	2月末日	825		0.8949	
	3月末日	831		0.9058	
	4月末日	839		0.9174	
	令和 1年 5月末日	830		0.9076	
	6月末日	844		0.9215	
	7月末日	856		0.9281	

(注) 表中の末日とは当該月の最終営業日を指します。

### 【分配の推移】

#### MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）

期	計算期間	1口当たりの分配金（円）
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	0.0180
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	0.0180
第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	0.0180
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	0.0180
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	0.0180
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	0.0180
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	0.0180
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	0.0120
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	0.0120
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	0.0120
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	0.0120

第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	0.0120
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	0.0120
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	0.0120
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	0.0120
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	0.0120
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	0.0120
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	0.0120
第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	0.0120
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	0.0120

## MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)

期	計算期間	1口当たりの分配金(円)
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	0.0180
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	0.0180
第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	0.0180
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	0.0180
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	0.0180
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	0.0180
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	0.0180
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	0.0100
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	0.0100
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	0.0100
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	0.0140
第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	0.0140
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	0.0140
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	0.0140
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	0.0140
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	0.0140
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	0.0140
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	0.0140
第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	0.0140
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	0.0140

## 【収益率の推移】

## MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)

期	計算期間	収益率(%)
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	11.45
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	4.77

第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	7.10
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	3.05
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	1.16
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	3.08
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	6.33
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	1.84
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	3.50
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	3.69
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	0.54
第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	0.17
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	5.12
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	8.48
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	3.50
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	2.92
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	0.50
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	3.22
第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	1.10
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	8.41

（注1）収益率は期間騰落率。

（注2）小数点第3位四捨五入。

MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）

期	計算期間	収益率（%）
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	6.26
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	0.70
第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	1.87
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	2.05
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	0.02
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	5.49
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	23.07
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	9.84
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	7.85
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	3.75
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	14.83
第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	4.82
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	7.14
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	7.35
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	16.68
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	0.03
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	0.21
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	0.29

第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	1.10
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	9.43

(注1) 収益率は期間騰落率。

(注2) 小数点第3位四捨五入。

#### (4) 【設定及び解約の実績】

##### MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	42,504,552	170,153,351	1,804,734,061
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	168,728,263	166,168,698	1,807,293,626
第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	148,689,858	440,691,690	1,515,291,794
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	27,420,160	95,887,635	1,446,824,319
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	20,527,065	198,410,196	1,268,941,188
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	19,354,788	39,436,885	1,248,859,091
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	34,626,685	169,076,641	1,114,409,135
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	31,004,243	61,963,371	1,083,450,007
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	12,481,099	69,704,083	1,026,227,023
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	60,889,972	49,381,427	1,037,735,568
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	71,817,619	94,796,342	1,014,756,845
第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	19,992,295	51,891,657	982,857,483
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	20,258,564	34,626,241	968,489,806
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	16,763,249	28,897,833	956,355,222
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	29,701,343	61,012,215	925,044,350
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	43,218,819	52,033,552	916,229,617
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	39,328,036	66,766,155	888,791,498
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	17,887,889	34,205,340	872,474,047
第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	13,860,444	21,215,504	865,118,987
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	31,510,404	22,289,804	874,339,587

##### MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)

期	計算期間	設定口数(口)	解約口数(口)	発行済み口数(口)
第25計算期間	平成21年 7月31日～平成22年 2月 1日	68,081,461	114,987,870	1,925,949,647
第26計算期間	平成22年 2月 2日～平成22年 7月30日	104,924,193	145,068,192	1,885,805,648
第27計算期間	平成22年 7月31日～平成23年 1月31日	53,960,033	213,923,265	1,725,842,416
第28計算期間	平成23年 2月 1日～平成23年 8月 1日	44,815,514	122,563,077	1,648,094,853
第29計算期間	平成23年 8月 2日～平成24年 1月30日	45,033,740	104,306,383	1,588,822,210
第30計算期間	平成24年 1月31日～平成24年 7月30日	44,633,514	143,260,744	1,490,194,980
第31計算期間	平成24年 7月31日～平成25年 1月30日	40,520,930	160,308,748	1,370,407,162

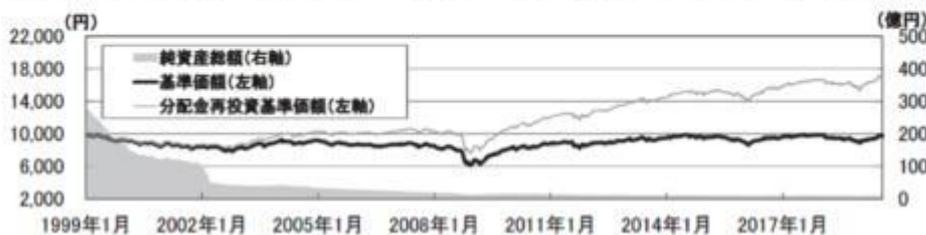
第32計算期間	平成25年 1月31日～平成25年 7月30日	40,365,935	101,214,852	1,309,558,245
第33計算期間	平成25年 7月31日～平成26年 1月30日	33,620,321	171,300,332	1,171,878,234
第34計算期間	平成26年 1月31日～平成26年 7月30日	31,429,296	65,641,360	1,137,666,170
第35計算期間	平成26年 7月31日～平成27年 1月30日	73,991,490	126,275,834	1,085,381,826
第36計算期間	平成27年 1月31日～平成27年 7月30日	50,111,165	63,523,900	1,071,969,091
第37計算期間	平成27年 7月31日～平成28年 2月 1日	60,525,064	46,796,090	1,085,698,065
第38計算期間	平成28年 2月 2日～平成28年 8月 1日	37,995,286	27,994,339	1,095,699,012
第39計算期間	平成28年 8月 2日～平成29年 1月30日	29,748,036	29,911,103	1,095,535,945
第40計算期間	平成29年 1月31日～平成29年 7月31日	34,556,547	120,769,916	1,009,322,576
第41計算期間	平成29年 8月 1日～平成30年 1月30日	29,735,575	113,021,830	926,036,321
第42計算期間	平成30年 1月31日～平成30年 7月30日	24,403,065	28,494,168	921,945,218
第43計算期間	平成30年 7月31日～平成31年 1月30日	18,248,064	23,309,275	916,884,007
第44計算期間	平成31年 1月31日～令和 1年 7月30日	45,323,873	47,495,683	914,712,197

## 参考情報

データの基準日:2019年7月31日

## A コース

基準価額・純資産の推移(1999年1月4日～2019年7月31日)



分配の推移(税引前)

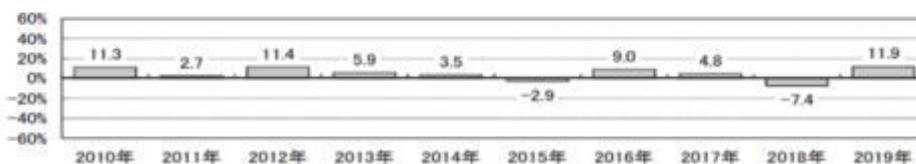
2019年 7月	120円
2019年 1月	120円
2018年 7月	120円
2018年 1月	120円
2017年 7月	120円
設定来累計	5,690円

## 主要な資産の状況

■ 組入銘柄 ※比率(%)は、純資産総額に対する当該資産の時価比率(小数点第二位四捨五入)です。

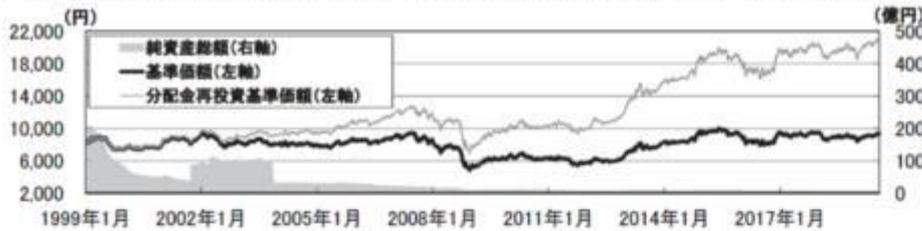
順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USインカムマザーファンド	98.1

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



## B コース

## 基準価額・純資産の推移(1999年1月4日～2019年7月31日)



## 分配の推移(税引前)

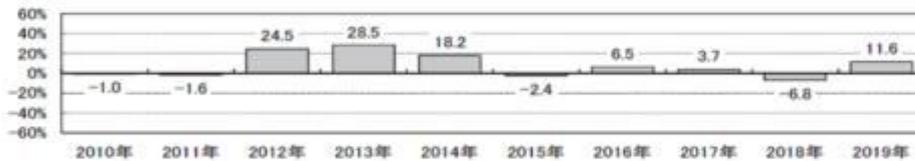
2019年 7月	140円
2019年 1月	140円
2018年 7月	140円
2018年 1月	140円
2017年 7月	140円
設定来累計	9,080円

## 主要な資産の状況

■ 組入銘柄 ※比率(%)は、純資産総額に対する当該資産の時価比率(小数点第二位四捨五入)です。

順位	銘柄名	比率(%)
1	LA USインカムマザーファンド	98.2

## 年間収益率の推移(暦年ベース)



※基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。

※分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。なお、1999年1月4日の各ファンドの基準価額(Aコース 9,829円、Bコース 8,268円)に合わせて指数化しています。(設定日:1997年1月31日)

※分配金は1万口当たりです。

※年間収益率は、分配金再投資基準価額をもとに計算したものです。

※2019年については年初から基準日までの収益率を表示しています。

※各ファンドにはベンチマークはありません。

○掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

## 主要な資産の状況

### ■LA USインカムマザーファンド

※比率(%)は、当該マザーファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率(小数点第二位四捨五入)です。資産の種類の内書は、国/地域を表します。

#### 資産の状況

資産の種類	比率(%)
株式	2.9
内 アメリカ	2.9
新株予約権証券	0.0
内 アメリカ	0.0
新株予約権付社債券	15.0
内 アメリカ	15.0
国債証券	0.9
内 バミューダ	0.5
内 ケイマン諸島	0.4
社債券	76.7
内 アメリカ	69.3
内 カナダ	1.7
内 アイルランド	1.6
内 バミューダ	0.7
内 ルクセンブルグ	0.7
内 その他	2.7
投資証券	1.8
内 アメリカ	1.8
コールローンその他の資産(負債控除後)	2.7
合計(純資産総額)	100.0

#### 組入上位10銘柄

順位	銘柄名	種類	国/地域	業種	利率(%)	償還期限	比率(%)
1	エバーブリッジ	新株予約権付社債券	アメリカ	-	1.500	2022年11月 1日	3.2
2	アマゾン・ドット・コム	社債券	アメリカ	-	5.200	2025年12月 3日	2.7
3	アドバンスト・マイクロ・デバイセズ	新株予約権付社債券	アメリカ	-	2.125	2026年 9月 1日	2.7
4	ザリンクス	社債券	アメリカ	-	2.950	2024年 6月 1日	2.0
5	レプリジェン	新株予約権付社債券	アメリカ	-	2.125	2021年 6月 1日	1.9
6	クラウン・キャッスル・インターナショナル	投資証券	アメリカ	-	-	-	1.8
7	ダナハー	株式	アメリカ	ヘルスケア機器・サービス	-	-	1.8
8	エアロジェット・ロケット・ダイナミクス・ホールディングス	新株予約権付社債券	アメリカ	-	2.250	2023年12月15日	1.6
9	サービスナウ	新株予約権付社債券	アメリカ	-	0.000	2022年 6月 1日	1.6
10	HCA	社債券	アメリカ	-	5.500	2047年 6月15日	1.6

○掲載データ等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆、保証するものではありません。

○委託会社のホームページ等で運用状況が開示されている場合があります。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込(販売)手続等】

(1) 各ファンドのお申込みは、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までにお買付けのお

申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みといたします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については翌営業日のお取扱いとなります。

- (2) 取得申込者は販売会社に、取得申込みと同時にまたはあらかじめ、自己のために開設されたファンドの受益権の振替を行うための振替機関等の口座を示すものとし、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録が行われます。なお、販売会社は、当該取得申込みの代金の支払いと引換えに、当該口座に当該取得申込者にかかる口数の増加の記載または記録を行うことができます。委託会社は、追加信託により分割された受益権について、振替機関等の振替口座簿への新たな記載または記録をするため社振法に定める事項の振替機関への通知を行うものとします。
- (3) お申込みには、収益の分配がなされた場合に分配金を受領する「一般コース」と、分配金は原則として税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資される「自動けいぞく投資コース」の2つの申込方法があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のコースのみの取扱いとなる場合があります。なお、当初お申込みいただいた後のコース変更はできません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (4) 申込単位は、各販売会社が定める単位とします。申込単位については、販売会社にお問い合わせください。
- (5) 取得申込者と販売会社との間であらかじめ決められた一定の金額を一定期間毎に定時定額購入（積立）をすることができる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- (6) 取得申込みにかかる受益権の価額は、取得申込日の翌営業日の基準価額に、販売会社が別に定める申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額を加算した価額とします。
- (7) 販売会社において金額買付（申込単位が金額にて表示されている場合）によるお申込みをされた場合、申込手数料および申込手数料にかかる消費税等相当額はお申込代金の中から差し引かれます。
- (8) 自動けいぞく投資約款に基づく契約に基づき、収益分配金を再投資する際は、1口単位で購入できるものとします。なお、その際の受益権の価額は、原則として各計算期間終了日の基準価額とします。
- (9) 各ファンド間で、販売会社が別に定める単位でスイッチング（乗換え）ができます。

スイッチングとは、現在保有しているファンドを換金（解約請求）すると同時に他のファンドの取得申込みを行う取引のことをいい、ファンドの換金代金そのまま取得申込代金に充当されます。

スイッチング前とスイッチング後で受益者の個別元本が変わり、スイッチング申込者の損益が一旦確定します。

スイッチングの際には、申込手数料は無手数料となりますが、解約請求時と同様の税金（課税対象者の場合）がかかりますのでご注意ください。

販売会社によっては、スイッチングの取扱いを行わない場合、またはスイッチングの取扱いに一定の制限を設ける場合があります。スイッチングの取扱いや申込単位等については、販売会社にお問い合わせください。
- (10) 販売会社によっては「Aコース」もしくは「Bコース」のどちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。詳しくは販売会社または委託会社にお問い合わせください。
- (11) 信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、受益権の取得申込み（スイッチングのお申込みを含みます。）の受付を中止すること、および既に受付けた取得申込み（スイッチングのお申込みを含みます。）の受付を取り消すことができます。

## 2【換金（解約）手続等】

- (1) 受益者は、自己に帰属する受益権につき、委託会社に各販売会社が定める単位をもって解約を請求することができます。

解約単位は、販売会社にお問い合わせください。

- (2) 解約の請求を行う受益者は、振替制度にかかる口座が開設されている振替機関等に対して当該受益者の請求にかかるこの信託契約の一部解約を委託会社が行うのと引換えに、当該一部解約にかかる受益権の口数と同口数の抹消の申請を行うものとし、社振法の規定にしたがい当該振替機関等の口座において当該口数の減少の記載または記録が行われます。なお、解約の請求を受益者が行う際は、販売会社に対し振替受益権をもって行うものとします。
- (3) 解約請求の受付については、原則として委託会社および販売会社の営業日の午後3時までには解約のお申込みが行われ、かつ当該お申込みの受付にかかる販売会社の所定の事務手続きが完了したものを当日分のお申込みとします。この時間を過ぎてのお申込みおよび所定の事務手続き完了分については、翌営業日のお取扱いとなります。
- (4) 解約の価額は、解約請求受付日の翌営業日の基準価額とします。詳しくは、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。

照会先の名称	電話番号
アセットマネジメントOne株式会社	0120-104-694

電話によるお問い合わせは、営業日の午前9時～午後5時までとさせていただきます。(以下同じ。)

- (5) 解約代金は、受益者の請求を受付けた日から起算して、原則として、6営業日目から販売会社において受益者に支払われます。
- (6) 信託財産の資金管理を円滑に行うために大口の解約請求には制限を設ける場合があります。また、信託財産の運用方針の維持および円滑な資金管理のため、各ファンドの残高や市場の流動性等に応じ、委託会社の判断により一日あたりの解約のお申込みの総額について制限を設ける場合があります。
- (7) 信託財産の効率的な運用が妨げられると委託会社が合理的に判断する場合、証券取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、委託会社は、一部解約の実行の請求の受付を中止すること、および既に受付けた一部解約の実行の請求の受付を取り消すことができます。この場合、受益者は当該受付中止以前に行った当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受付中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受付けたものとして、前記(4)の規定に準じた価額とします。
- (8) ご換金の方法について、販売会社によっては解約請求制のほかに買取請求制（販売会社が受益権を買取ることにより換金する方法）による換金を受付ける場合があります。詳しくはお申込みの販売会社にお問い合わせください。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

基準価額とは、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則に従って時価評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を計算日における受益権総口数で除した金額をいいます。

<主な投資対象の時価評価方法の原則>

投資対象	評価方法
マザーファンド受益証券	計算日の基準価額
株式	計算日における取引所の最終相場

公社債等	計算日における以下のいずれかの価額 ・日本証券業協会が発表する売買参考統計値(平均値) ・金融商品取引業者、銀行などの提示する価額(売り気配相場を除きます。) ・価格情報会社の提供する価額
外貨建資産の円換算	計算日の国内における対顧客電信売買相場の仲値
外国為替予約の円換算	計算日の国内における対顧客先物売買相場の仲値

外国で取引されているものについては、計算日の直近の日とします。

各ファンドの基準価額は、委託会社の毎営業日(土曜日、日曜日、「国民の祝日に関する法律」に定める休日ならびに12月31日、1月2日および1月3日以外の日とします。)に計算されます。基準価額については、販売会社または委託会社にお問い合わせください。なお、委託会社に対する照会は下記においてできます。基準価額は1万口単位で表示されたものが発表されます。

照会先の名称	ホームページアドレス	電話番号
アセットマネジメントOne株式会社	<a href="http://www.am-one.co.jp/">http://www.am-one.co.jp/</a>	0120-104-694

## (2)【保管】

該当事項はありません。

## (3)【信託期間】

1997年1月31日から無期限とします。

## (4)【計算期間】

毎年1月31日から7月30日まで、および7月31日から翌年1月30日までとすることを原則とします。

ただし、第1期計算期間は1997年1月31日から1998年1月30日までとします。上記の規定にかかわらず、各計算期間終了日に該当する日(以下「当該日」といいます。)が休業日のとき、計算期間終了日は、当該日の翌日以降の最初の営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。

## (5)【その他】

### 信託契約の解約

以下の場合には信託契約を解約し信託を終了することがあります。

1. 委託会社は、信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したとき、もしくは信託契約の一部解約により、受益権の口数が当初設定口数の10分の1または5億口を下回ることとなるときは、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託契約を解約し、信託を終了させることができます。

a. この場合において、委託会社は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。委託会社はかかる事項について、あらかじめ、解約しようとする旨を公告し、かつ、その旨を記載した書面を信託契約にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託契約にかかる全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。

b. 前記a.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議

を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一ヵ月を下らないものとします。

- c. 前記b.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の信託契約の解約をしません。
  - d. 委託会社は、信託契約の解約をしないこととしたときは、解約しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
  - e. 前記b.からd.までの規定は、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、前記b.の一定の期間が一ヵ月を下らずにその公告および書面の交付を行うことが困難な場合には適用しません。
  - f. 前記1.に定める信託契約の解約を行う場合において、前記b.の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。
2. 委託会社は、監督官庁より信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し、信託を終了させます。
  3. 委託会社が監督官庁より登録の取り消しを受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託会社は、信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁が、信託契約に関する委託会社の業務を他の投資信託委託会社に引継ぐことを命じたときは、信託は、「信託約款の変更4.」に該当する場合を除き、当該投資信託委託会社と受託会社との間において存続します。
  4. 受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合において、委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

#### 信託約款の変更

1. 委託会社は、信託約款を変更することが受益者の利益のため必要と認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、該当するファンドの信託約款を変更できるものとし、あらかじめ、変更しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。
2. 委託会社は、前記1.の変更事項のうち、その内容が重大なものについて、あらかじめ、変更しようとする旨を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を信託約款にかかる知られたる受益者に対して交付します。ただし、信託約款にかかるすべての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
3. 前記2.の公告および書面には、受益者で異議のある者は一定の期間内に委託会社に対して異議を述べるべき旨を付記します。なお、一定の期間は一ヵ月を下らないものとします。
4. 前記3.の一定の期間内に異議を述べた受益者の受益権の口数が受益権の総口数の二分の一を超えるときは、前記1.の信託約款の変更をしません。
5. 委託会社は、信託約款を変更しないこととしたときは、変更しない旨およびその理由を公告し、かつ、これらの事項を記載した書面を知られたる受益者に対して交付します。ただし、全ての受益者に対して書面を交付したときは、原則として、公告を行いません。
6. 前記2.に定める変更を行う場合において、前記3.の期間内に異議を述べた受益者は、受託会社に対し、自己に帰属する受益権を、信託財産をもって買取るべき旨を請求することができます。なお、買取請求の取扱いについては、委託会社、受託会社の協議により決定するものとします。
7. 委託会社は、監督官庁の命令に基づいて信託約款を変更しようとするときは、上記の規定にしたがいます。

委託会社の事業の譲渡および承継に伴う取扱い

1. 委託会社は、事業の全部または一部を譲渡することがあり、これに伴ない、信託契約に関する事業を譲渡することがあります。
2. 委託会社は、分割により事業の全部または一部を承継させることがあり、これに伴ない、信託契約に関する事業を承継させることがあります。

関係法人との契約の更改および受託会社の辞任または解任に伴う取扱い

1. 各ファンドが主要投資対象とするマザーファンドにおける委託会社と投資顧問会社との間の外部委託契約の契約期間は、マザーファンドの信託契約の期間と同一です。ただし、外部委託契約のいずれの当事者も、30日以上前の書面による通知をもって当該契約を解約できます。なお、当該契約は、日本法を準拠法とします。
2. 委託会社と販売会社との間の募集・販売等契約は、締結日から原則1年間とし、期間終了の3ヵ月前までに別段の意思表示のない時は、同一条件にて継続されます。
3. 受託会社は、委託会社の承諾を受けてその任務を辞任することができます。また、受託会社はその任務に背いた場合、その他重要な事由が生じたときは、委託会社または受益者は、裁判所に受託会社の解任を請求することができます。受託会社が辞任した場合、または裁判所が受託会社を解任した場合、委託会社は「信託約款の変更」の規定にしたがい、新受託会社を選任します。委託会社が新受託会社を選任できないときは、委託会社は信託契約を解約し、信託を終了させます。

信託事務処理の再信託

受託会社は、各ファンドにかかる信託事務処理の一部について、資産管理サービス信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行います。

公告

委託会社が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行い、次のアドレスに掲載します。

<http://www.am-one.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

運用報告書

委託会社は、決算時および信託終了時に期中の運用経過のほか、信託財産の内容、有価証券売買状況などを記載した「運用報告書」を作成します。

- ・ 交付運用報告書は、販売会社を通じて交付いたします。
- ・ 運用報告書(全体版)は、次のアドレスに掲載します。ただし、受益者から運用報告書(全体版)の交付の請求があった場合には、交付いたします。

<http://www.am-one.co.jp/>

#### 4【受益者の権利等】

##### (1) 収益分配金請求権

受益者は、委託会社の決定した収益分配金を、持ち分に応じて請求する権利を有します。

受益者が収益分配金支払開始日から5年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる計算期間の末日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で

記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

なお、「自動けいぞく投資コース」により収益分配金を再投資する受益者に対しては、委託会社は受託会社から受けた収益分配金を、原則として毎計算期間終了日の翌営業日に販売会社に交付します。販売会社は、受益者に対し遅滞なく収益分配金の再投資にかかる受益権の売付を行います。再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

(2) 償還金請求権

受益者は、持ち分に応じて償還金を請求する権利を有します。

受益者が信託終了による償還金について支払開始日から10年間支払いを請求しないときは、その権利を失い、受託会社から交付を受けた金銭は、委託会社に帰属します。

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者(償還日以前において一部解約が行われた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため、販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者とします。)に、原則として償還日(休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までにお支払いを開始します。

(3) 一部解約請求権

受益者は、自己に帰属する受益権について、一部解約の実行の請求をすることができます。

(4) 帳簿書類の閲覧・謄写の請求権

受益者は、委託会社に対し、その営業時間内に当該受益者にかかる信託財産に関する帳簿書類の閲覧または謄写を請求することができます。

### 第3【ファンドの経理状況】

MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)

MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)

(1) 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)に基づいて作成しております。

なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2) 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第44期計算期間の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

## 【MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)】

## (1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	40,384,153	26,337,082
親投資信託受益証券	764,096,646	839,677,516
未収入金	-	10,420,000
流動資産合計	804,480,799	876,434,598
資産合計	804,480,799	876,434,598
<b>負債の部</b>		
流動負債		
派生商品評価勘定	3,755,332	10,815,490
未払金	-	172,283
未払収益分配金	10,381,427	10,492,075
未払解約金	18,177	195,564
未払受託者報酬	436,114	439,377
未払委託者報酬	6,759,739	6,810,282
未払利息	82	54
その他未払費用	15,553	15,400
流動負債合計	21,366,424	28,940,525
負債合計	21,366,424	28,940,525
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	865,118,987	874,339,587
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	82,004,612	26,845,514
(分配準備積立金)	125,196,385	127,372,800
元本等合計	783,114,375	847,494,073
純資産合計	783,114,375	847,494,073
負債純資産合計	804,480,799	876,434,598

## (2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
<b>営業収益</b>		
有価証券売買等損益	257,260	81,470,870
為替差損益	1,247,594	7,890,278
営業収益合計	1,504,854	73,580,592
<b>営業費用</b>		
支払利息	7,060	2,799
受託者報酬	436,114	439,377
委託者報酬	6,759,739	6,810,282
その他費用	26,353	15,400
営業費用合計	7,229,266	7,267,858
営業利益又は営業損失( )	8,734,120	66,312,734
経常利益又は経常損失( )	8,734,120	66,312,734
当期純利益又は当期純損失( )	8,734,120	66,312,734
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	14,888	820,513
期首剰余金又は期首欠損金( )	63,350,474	82,004,612
剰余金増加額又は欠損金減少額	1,540,150	2,105,777
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	1,540,150	2,105,777
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,063,853	1,946,825
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,063,853	1,946,825
分配金	10,381,427	10,492,075
期末剰余金又は期末欠損金( )	82,004,612	26,845,514

## ( 3 ) 【注記表】

( 重要な会計方針に係る事項に関する注記 )

項目	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券  基準価額で評価しております。
2 派生商品等の評価基準及び評価方法	為替予約取引  原則として時価で評価しております。
3 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算し、為替予約の評価は計算期間末日に残高がある場合、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
4 収益・費用の計上基準	有価証券売買等損益及び為替差損益  約定日基準で計上しております。

( 貸借対照表に関する注記 )

第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)		第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)	
1	計算期間末日における受益権の総数  865,118,987口	1	計算期間末日における受益権の総数  874,339,587口
2	元本の欠損金額 純資産額は元本を82,004,612円下回っております。	2	元本の欠損金額 純資産額は元本を26,845,514円下回っております。
3	計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 0.9052円  (1万口当たり純資産の額) (9,052円)	3	計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 0.9693円  (1万口当たり純資産の額) (9,693円)

( 損益及び剰余金計算書に関する注記 )

第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)																																										
<p>1 信託財産の運用の指図にかかわる権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額</p> <p>(注) 当該金額は、親投資信託の運用の指図に係る権限を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額のうち、信託財産に属する額になっております。</p> <p>委託費用 1,514,021円</p> <p>2 分配金の計算過程</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(10,999,538円)、有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(145,474,044円)、分配準備積立金(124,578,274円)より、分配対象収益は281,051,856円(1万口当たり3,248円)であり、うち10,381,427円(1万口当たり120円)を分配金額としております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益</td> <td>A</td> <td>10,999,538円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>C</td> <td>145,474,044円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>D</td> <td>124,578,274円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>281,051,856円</td> </tr> <tr> <td>収益分配額</td> <td>F</td> <td>10,381,427円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			配当等収益	A	10,999,538円	有価証券売買等損益	B	0円	収益調整金	C	145,474,044円	分配準備積立金	D	124,578,274円	分配可能額	E=A+B+C+D	281,051,856円	収益分配額	F	10,381,427円	<p>1 信託財産の運用の指図にかかわる権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額</p> <p>(注) 当該金額は、親投資信託の運用の指図に係る権限を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額のうち、信託財産に属する額になっております。</p> <p>委託費用 1,526,277円</p> <p>2 分配金の計算過程</p> <p>計算期間末における費用控除後の配当等収益(15,832,028円)、有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(151,562,197円)、分配準備積立金(122,032,847円)より、分配対象収益は289,427,072円(1万口当たり3,310円)であり、うち10,492,075円(1万口当たり120円)を分配金額としております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配当等収益</td> <td>A</td> <td>15,832,028円</td> </tr> <tr> <td>有価証券売買等損益</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金</td> <td>C</td> <td>151,562,197円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金</td> <td>D</td> <td>122,032,847円</td> </tr> <tr> <td>分配可能額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>289,427,072円</td> </tr> <tr> <td>収益分配額</td> <td>F</td> <td>10,492,075円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			配当等収益	A	15,832,028円	有価証券売買等損益	B	0円	収益調整金	C	151,562,197円	分配準備積立金	D	122,032,847円	分配可能額	E=A+B+C+D	289,427,072円	収益分配額	F	10,492,075円
項目																																											
配当等収益	A	10,999,538円																																									
有価証券売買等損益	B	0円																																									
収益調整金	C	145,474,044円																																									
分配準備積立金	D	124,578,274円																																									
分配可能額	E=A+B+C+D	281,051,856円																																									
収益分配額	F	10,381,427円																																									
項目																																											
配当等収益	A	15,832,028円																																									
有価証券売買等損益	B	0円																																									
収益調整金	C	151,562,197円																																									
分配準備積立金	D	122,032,847円																																									
分配可能額	E=A+B+C+D	289,427,072円																																									
収益分配額	F	10,492,075円																																									

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。	同左

2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。</p> <p>これらは、市場リスク（価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク）、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。</p> <p>また、当ファンドは金融商品の為替変動リスクの低減を目的として為替予約取引を行っております。</p>	同左
3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。</p> <p>リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。</p> <p>なお、具体的には以下のリスクの管理を行っております。</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	同左
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>	同左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	(1)有価証券 親投資信託受益証券  原則として、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。  (2)デリバティブ取引 為替予約取引  デリバティブ取引等に関する注記に記載しております。  (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務  コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	(1)有価証券 親投資信託受益証券  同左  (2)デリバティブ取引 為替予約取引  同左  (3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務  同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第43期計算期間(自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	1,496,180
合計	1,496,180

第44期計算期間(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額(円)
親投資信託受益証券	77,976,893
合計	77,976,893

(デリバティブ取引等に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(通貨関連)

第43期計算期間(平成31年1月30日現在)

区分	種類	契約額等(円)		時価(円)	評価損益(円)
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	742,050,440	-	745,805,772	3,755,332
	米・ドル	742,050,440	-	745,805,772	3,755,332
合計		742,050,440	-	745,805,772	3,755,332

第44期計算期間(令和1年7月30日現在)

区分	種類	契約額等(円)		時価(円)	評価損益(円)
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	818,901,404	-	829,716,894	10,815,490
	米・ドル	818,901,404	-	829,716,894	10,815,490
合計		818,901,404	-	829,716,894	10,815,490

(注)時価の算定方法

(1) 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

- ・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算しております。

- ・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

( 関連当事者との取引に関する注記 )

第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。	同左

( その他の注記 )

項目	期別 第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
期首元本額	872,474,047円	865,118,987円
期中追加設定元本額	13,860,444円	31,510,404円
期中一部解約元本額	21,215,504円	22,289,804円

( 4 ) 【附属明細表】

第 1 有価証券明細表

(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

( 令和 1年 7月30日現在 )

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本・円	L A U S インカムマザーファンド	203,701,394	839,677,516	
		小計	203,701,394	839,677,516	
		組入時価比率：99.1%		100.0%	
合計				839,677,516	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第 2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

### 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。

## 【MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)】

## (1)【貸借対照表】

(単位:円)

	第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	11,869,738	27,667,086
親投資信託受益証券	776,397,411	844,127,521
未収入金	24,090,000	-
流動資産合計	812,357,149	871,794,607
資産合計	812,357,149	871,794,607
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	12,836,376	12,805,970
未払解約金	313,258	1,499
未払受託者報酬	447,149	446,936
未払委託者報酬	6,930,736	6,927,403
未払利息	24	56
その他未払費用	15,941	15,671
流動負債合計	20,543,484	20,197,535
負債合計	20,543,484	20,197,535
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	916,884,007	914,712,197
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	125,070,342	63,115,125
(分配準備積立金)	113,670,981	111,359,919
元本等合計	791,813,665	851,597,072
純資産合計	791,813,665	851,597,072
負債純資産合計	812,357,149	871,794,607

## (2)【損益及び剰余金計算書】

(単位:円)

	第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
営業収益		
有価証券売買等損益	1,365,132	82,370,110
営業収益合計	1,365,132	82,370,110
営業費用		
支払利息	5,430	2,807
受託者報酬	447,149	446,936
委託者報酬	6,930,736	6,927,403
その他費用	15,941	15,671
営業費用合計	7,399,256	7,392,817
営業利益又は営業損失( )	8,764,388	74,977,293
経常利益又は経常損失( )	8,764,388	74,977,293
当期純利益又は当期純損失( )	8,764,388	74,977,293
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額( )	333,517	2,019,366
期首剰余金又は期首欠損金( )	103,786,053	125,070,342
剰余金増加額又は欠損金減少額	2,622,747	6,459,854
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	2,622,747	6,459,854
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	-	-
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,972,755	4,656,594
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	-	-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額	1,972,755	4,656,594
分配金	12,836,376	12,805,970
期末剰余金又は期末欠損金( )	125,070,342	63,115,125

## (3) 【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
	1 有価証券の評価基準及び評価方法
2 収益・費用の計上基準	有価証券売買等損益  約定日基準で計上しております。

## (貸借対照表に関する注記)

第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)		第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)	
1	計算期間末日における受益権の総数  916,884,007口	1	計算期間末日における受益権の総数  914,712,197口
2	元本の欠損金額 純資産額は元本を125,070,342円下回っております。	2	元本の欠損金額 純資産額は元本を63,115,125円下回っております。
3	計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 0.8636円  (1万口当たり純資産の額) (8,636円)	3	計算期間末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産の額 0.9310円  (1万口当たり純資産の額) (9,310円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)		第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)	
1 信託財産の運用の指図にかかわる権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額  (注) 当該金額は、親投資信託の運用の指図に係る権限を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額のうち、信託財産に属する額になっております。 委託費用 1,552,327円		1 信託財産の運用の指図にかかわる権限の全部または一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額  (注) 当該金額は、親投資信託の運用の指図に係る権限を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額のうち、信託財産に属する額になっております。 委託費用 1,552,460円	

## 2 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(11,482,046円)、有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(149,072,344円)、分配準備積立金(115,025,311円)より、分配対象収益は275,579,701円(1万口当たり3,005円)であり、うち12,836,376円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

項目		
配当等収益	A	11,482,046円
有価証券売買等損益	B	0円
収益調整金	C	149,072,344円
分配準備積立金	D	115,025,311円
分配可能額	E=A+B+C+D	275,579,701円
収益分配額	F	12,836,376円

## 2 分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(16,226,947円)、有価証券売買等損益(0円)、収益調整金(154,245,013円)、分配準備積立金(107,938,942円)より、分配対象収益は278,410,902円(1万口当たり3,043円)であり、うち12,805,970円(1万口当たり140円)を分配金額としております。

項目		
配当等収益	A	16,226,947円
有価証券売買等損益	B	0円
収益調整金	C	154,245,013円
分配準備積立金	D	107,938,942円
分配可能額	E=A+B+C+D	278,410,902円
収益分配額	F	12,805,970円

## (金融商品に関する注記)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

項目	第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。	同左
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。	同左

3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。</p> <p>リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。</p> <p>なお、具体的には以下のリスクの管理を行っております。</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	同左
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>	同左

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	(1) 有価証券	(1) 有価証券

親投資信託受益証券	親投資信託受益証券
原則として、親投資信託受益証券の基準価額で評価しております。	同左
(2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務	(2)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務
コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	同左

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

第43期計算期間(自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	1,332,836
合計	1,332,836

第44期計算期間(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
親投資信託受益証券	80,192,216
合計	80,192,216

(デリバティブ取引等に関する注記)

該当事項はありません。

(関連当事者との取引に関する注記)

第43期計算期間 (自 平成30年 7月31日 至 平成31年 1月30日)	第44期計算期間 (自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
市場価格その他当該取引に係る価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行われていないため、該当事項はありません。	

(その他の注記)

項目	期別 第43期計算期間 (平成31年 1月30日現在)	第44期計算期間 (令和 1年 7月30日現在)
期首元本額	921,945,218円	916,884,007円
期中追加設定元本額	18,248,064円	45,323,873円
期中一部解約元本額	23,309,275円	47,495,683円

(4) 【附属明細表】

第1 有価証券明細表  
(1) 株式

該当事項はありません。

(2) 株式以外の有価証券

(令和 1年 7月30日現在)

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
親投資信託受益証券	日本・円	L A U Sインカムザーフンド	204,780,942	844,127,521	
		小計	204,780,942	844,127,521	
		組入時価比率：99.1%		100.0%	
合計				844,127,521	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

(参考)

各ファンドは、「L A U S インカムマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」は、すべて同マザーファンドの受益証券です。なお、同マザーファンドの状況は次の通りです。

## L A U S インカムマザーファンド

なお、以下に記載した情報は監査の対象外であります。

### 貸借対照表

(単位：円)	
(令和 1年 7月30日現在)	
<b>資産の部</b>	
流動資産	
預金	105,928,797
コール・ローン	10,440,764
株式	152,375,336
新株予約権証券	1,128
国債証券	46,448,662
社債券	4,870,362,274
投資証券	94,052,213
未収入金	28,989,889
未収配当金	1,482,265
未収利息	48,801,796
前払費用	1,590,270
流動資産合計	5,360,473,394
<b>資産合計</b>	<b>5,360,473,394</b>
<b>負債の部</b>	
流動負債	
派生商品評価勘定	171,167
未払金	72,683,430
未払解約金	46,220,000
未払利息	21
流動負債合計	119,074,618
<b>負債合計</b>	<b>119,074,618</b>
<b>純資産の部</b>	
元本等	
元本	1,271,548,467
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金( )	3,969,850,309
元本等合計	5,241,398,776
純資産合計	5,241,398,776
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,360,473,394</b>

### 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

項目	(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
1 有価証券の評価基準及び評価方法	株式、新株予約権証券、国債証券、社債券、投資証券

項目	(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
2 派生商品等の評価基準及び評価方法	原則として時価で評価しております。 為替予約取引
3 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	原則として時価で評価しております。 信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算し、為替予約の評価は計算期間末日に残高がある場合、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客先物売買相場の仲値によって計算しております。
4 収益・費用の計上基準	受取配当金 受取配当金は、原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 有価証券売買等損益及び為替差損益 約定日基準で計上しております。

( 貸借対照表に関する注記 )

項目	(令和 1年 7月30日現在)
1 計算期間末日における受益権の総数	1,271,548,467口
2 計算期間末日における1単位当たりの純資産の額	1口当たり純資産の額 4.1221円 (1万口当たり純資産の額) (41,221円)

( 金融商品に関する注記 )

1. 金融商品の状況に関する事項

項目	(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
1 金融商品に対する取組方針	当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める投資を目的とする証券投資信託であり、証券投資信託約款および投資ガイドラインに基づいて運用しております。

項目	(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)
2 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、デリバティブ取引、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>なお、詳細は附属明細表をご参照下さい。</p> <p>これらは、市場リスク(価格変動リスク、為替変動リスク、金利変動リスク)、信用リスク、及び流動性リスクを有しております。</p> <p>また、当ファンドは、外貨建証券の売買等の決済に伴い必要となる外貨の売買のために、為替予約取引を行っております。</p>
3 金融商品に係るリスク管理体制	<p>運用担当部署から独立したコンプライアンス・リスク管理担当部署が、運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用担当部署へ対応の指示等を行うことにより、適切な管理を行います。</p> <p>リスク管理に関する委員会等はこれらの運用リスク管理状況の報告を受け、総合的な見地から運用状況全般の管理を行います。</p> <p>なお、具体的には以下のリスクの管理を行っております。</p> <p><b>市場リスクの管理</b> 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p><b>信用リスクの管理</b> 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p><b>流動性リスクの管理</b> 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>
4 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。</p> <p>また、デリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。</p>

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

項目	(令和 1年 7月30日現在)
1 貸借対照表日における貸借対照表の科目ごとの計上額・時価・時価との差額	<p>貸借対照表に計上している金融商品は、原則として時価評価としているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませぬ。</p>
2 貸借対照表の科目ごとの時価の算定方法	<p>(1)有価証券</p> <p>株式、新株予約権証券、国債証券、社債券、投資証券</p>

項目	(令和 1年 7月30日現在)
	<p>わが国の金融商品取引所または海外取引所に上場されている有価証券            当該有価証券については、原則として上記の取引所における計算期間末日の最終相場（外貨建証券の場合は計算期間末日において知りうる直近の日の最終相場）で評価しております。</p> <p>わが国の金融商品取引所または海外取引所に上場されていない有価証券            当該有価証券については、原則として、日本証券業協会が発表する売買参考統計値（平均値）（外貨建証券を除く）、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（売気配相場を除く）または価格情報会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>時価が入手できなかった有価証券            適正な評価額を入手できない場合または入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認めた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認めた価額で評価しております。</p> <p>(2)デリバティブ取引</p> <p>為替予約取引</p> <p>デリバティブ取引等に関する注記に記載しております。</p> <p>(3)コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

(自 平成31年 1月31日 至 令和 1年 7月30日)

種類	当計算期間の損益に含まれた評価差額 (円)
株式	11,988,081
新株予約権証券	0
国債証券	1,224,316
社債券	402,385,476
投資証券	7,902,866
合計	423,500,739

(デリバティブ取引等に関する注記)

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(通貨関連)

(令和 1年 7月30日現在)

区分	種類	契約額等（円）		時価（円）	評価損益（円）
			うち1年超		
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建	46,203,193	-	46,374,360	171,167
	米・ドル	46,203,193	-	46,374,360	171,167
	合計	46,203,193	-	46,374,360	171,167

(注) 時価の算定方法

(1) 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されている外貨については、以下のように評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されている場合は、当該為替予約は当該仲値で評価しております。

計算期間末日において為替予約の受渡日の対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない場合は、以下の方法によっております。

・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されている場合には、発表されている先物相場のうち当該日に最も近い前後二つの先物相場の仲値をもとに計算しております。

・計算期間末日に為替予約の受渡日を超える対顧客先物売買相場が発表されていない場合には、当該日に最も近い発表されている対顧客先物売買相場の仲値を用いております。

(2) 計算期間末日に対顧客先物売買相場の仲値が発表されていない外貨については、計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値で評価しております。

(その他の注記)

項目	期別 (令和 1年 7月30日現在)
期首	平成31年 1月31日
親投資信託の期首における元本額	1,466,569,483円
期中追加設定元本額	16,367,484円
期中一部解約元本額	211,388,500円
期末元本額及びその内訳として当該親投資信託受益証券を投資対象とする委託者指図型投資信託ごとの元本額	
期末元本額	1,271,548,467円
MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)	203,701,394円
MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)	204,780,942円
MHAM USインカムオープン毎月決算コース(為替ヘッジなし)	863,066,131円

附属明細表

第1 有価証券明細表

(1) 株式

(令和 1年 7月30日現在)

通貨	銘柄	株式数	評価額		備考
			単価	金額	
米・ドル	REMINGTON OUTDOOR COMPANY INC	1,027	3.50	3,594.50	
	STANLEY BLACK & DECKER 5.375%(PFD)	3,000	105.25	315,750.00	
	DANAHER CORP 4.75% (PFD)	749	1,141.00	854,609.00	
	EURONET WORLDWIDE INC	1,412	159.63	225,397.56	
小計	銘柄数：4 組入時価比率：2.9%	6,188		1,399,351.06 (152,375,336) 100.0%	
合計		6,188		152,375,336 (152,375,336)	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注3) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(2)株式以外の有価証券

(令和 1年 7月30日現在)

種類	通貨	銘柄	証券数・券面総額・ 口数	評価額	備考
新株予約権証券	米・ドル	REMINGTON OUTDOOR WARRANTS	1,036.00	10.36	
		小計	銘柄数：1 組入時価比率：0.0%	1,036.00 10.36 (1,128) 0.0%	
	合計			1,128 (1,128)	
	国債証券	米・ドル	CAYMAN ISLANDS GOVT 5.95%	200,000.00	202,440.00
小計	GOVT OF BERMUDA 4.75%		200,000.00	224,125.00	
		銘柄数：2 組入時価比率：0.9%	400,000.00	426,565.00 (46,448,662) 0.9%	
	合計			46,448,662 (46,448,662)	
社債券	米・ドル	ADIANT US LLC 7%	31,000.00	31,542.50	
		ADVANCED MICRO 2.125%	300,000.00	1,274,808.30	

AERCAP IRELAND 3.65%	150,000.00	149,777.25	
AEROJET ROCKET 2.25%	450,000.00	782,885.25	
AHP HEALTH PARTNERS9.75%	37,000.00	40,145.00	
AIB GROUP PLC 4.263% VAR	200,000.00	206,147.60	
AIB GROUP PLC 4.75%	200,000.00	210,850.40	
AIRCASTLE LTD 4.25%	52,000.00	52,741.31	
ALBERTSONS COS 6.625%	92,000.00	96,370.00	
ALEXANDRIA REAL 3.8%	22,000.00	23,124.61	
ALEXANDRIA REAL 3.95%	85,000.00	90,047.21	
ALLEGHENY TECH 5.875% MC	89,000.00	96,898.75	
ALLSTATE CORP 3.28%	62,000.00	65,166.89	
ALLY FINANCIAL INC 5.75%	250,000.00	279,646.75	
ALLY FINANCIAL INC 8%	135,000.00	180,900.00	
ALTICE LUXEMBOURG 10.5%	200,000.00	209,750.00	
AMAZON.COM INC 5.2%	1,115,000.00	1,296,949.04	
AMC NETWORKS INC 4.75%	262,000.00	267,433.09	
AMC NETWORKS INC 5%	175,000.00	179,812.50	
AMERICAN EXPRESS 3.4%	96,000.00	99,225.79	
AMERICAN TOWER CORP2.95%	155,000.00	156,233.18	
ANZ NEW ZEALAND 2.125%	200,000.00	198,857.60	
ARCH CAPITAL FIN 4.011%	84,000.00	90,162.74	
ARIZONA PUBLIC 2.95%	66,000.00	66,339.96	
ASBURY AUTOMOTIVE 6%	52,000.00	54,324.92	
ASCENSION HEALTH 3.945%	58,000.00	62,597.13	
ASHTAD CAPITAL 4.375%	200,000.00	200,750.00	
ASHTON WOODS USA 6.75%	54,000.00	53,190.00	
ASSOC BANC-CORP 4.25%	50,000.00	52,096.05	
ATLANTIC CITY ELECTRIC4%	52,000.00	57,285.80	
AUSGRID FINANCE 4.35%	58,000.00	61,964.12	
AUTODESK INC 3.5%	118,000.00	119,907.35	
BACARDI LTD 2.75%	100,000.00	95,405.10	
BAFFINLAND IRON 8.75%	46,000.00	47,725.00	
BANFF MERGER SUB 9.75%	89,000.00	79,432.50	
BANK OF AMERICA 4.45%	139,000.00	149,894.54	
BANK OF AMERICA 4%	95,000.00	99,876.35	

BANK OF AMERICA2.369%VAR	245,000.00	244,833.40	
BANK OF IRELAND 4.5%	200,000.00	208,441.70	
BANKUNITED 4.875%	120,000.00	130,036.56	
BAUSCH HEALTH 7.25%	18,000.00	18,804.42	
BAYER US FINANCE 2.75%	100,000.00	99,888.40	
BBA US HOLDINGS 5.375%	28,000.00	29,190.00	
BERKSHIRE HATHAWAY 2.75%	178,000.00	181,749.92	
BERKSHIRE HATHAWAY 3.125%	53,000.00	54,863.32	
BERRY GLOBAL 4.875%	62,000.00	64,867.50	
BERRY GLOBAL 5.625%	27,000.00	28,636.87	
BEST BUY CO INC 4.45%	73,000.00	77,455.19	
BILL BARRETT CORP 7%	51,000.00	47,685.00	
BLACK HILLS CORP 4.35%	52,000.00	57,365.10	
BOMBARDIER INC 7.5%	244,000.00	253,150.00	
BOSTON SCIENTIFIC 7% MC	70,000.00	94,616.13	
BOYD GAMING CORP 6%	54,000.00	56,513.70	
BRAND ENERGY & INFRA8.5%	80,000.00	70,000.00	
BRINK'S CO/THE 4.625%	259,000.00	264,905.20	
BRITISH AIR 3.3% SI	106,000.00	107,222.18	
BRITISH AIR 3.35% SI	49,000.00	49,412.58	
BRITISH AIR 3.8% SI	37,930.44	39,881.96	
BRITISH AIR 4.125% SI	37,938.50	39,831.63	
BRIXMOR OPERATING 4.125%	86,000.00	90,393.22	
BROWN-FORMAN CORP 3.5%	39,000.00	41,013.76	
BROWN-FORMAN CORP 4.5%	102,000.00	120,287.37	
CADILLAC FAIRVIEW 3.875%	200,000.00	210,935.20	
CALIFORNIA RESOURCES 8%	75,000.00	51,750.00	
CALPINE CORP 5.75%	164,000.00	164,615.00	
CCO HLDGS LLC 5.75%	600,000.00	615,000.00	
CCO HLDGS LLC 5.875%	66,000.00	68,805.00	
CDW LLC/CDW FINANCE 5.5%	115,000.00	124,487.50	
CENTENE CORP 4.75%	158,000.00	161,555.00	
CENTENE CORP 5.375%	125,000.00	131,943.75	
CENTENNIAL RESOURCE 5.375%	46,000.00	42,550.00	
CF INDUSTRIES INC 4.5%	136,000.00	140,795.76	

CF INDUSTRIES INC 4.95%	11,000.00	9,941.25	
CF INDUSTRIES INC 5.15%	20,000.00	19,750.00	
CH ROBINSON WORLD 4.2%	79,000.00	85,306.96	
CHARLES SCHWAB 3.45%	58,000.00	60,766.89	
CHENIERE CORP 5.125%	92,000.00	100,280.00	
CHENIERE CORP 5.875%	68,000.00	75,225.00	
CHENIERE CORP 7%	100,000.00	114,250.00	
CHENIERE ENERGY 5.625%	70,000.00	74,112.50	
CHOBANI LLC/FINANCE 7.5%	67,000.00	62,980.00	
CHS/COMMUNITY 8%	118,000.00	116,598.75	
CIT GROUP INC 5.25%	28,000.00	30,730.00	
CIT GROUP INC 6.125%	123,000.00	141,450.00	
CITGO HOLDING INC 10.75%	120,000.00	125,376.00	
CITGO HOLDING INC 9.25%	34,000.00	35,275.00	
CITIGROUP INC 4.45%	94,000.00	101,302.01	
CLEAR CHANNEL WORLD9.25%	42,000.00	45,675.00	
CLEARWAY ENERGY 5.75%	62,000.00	64,557.50	
CLEVELAND CLIFFS 5.75%	36,000.00	36,900.00	
CONTINENTAL RES 4.9%	147,000.00	152,349.33	
CROWN CORK & SEAL 7.375%	80,000.00	94,400.00	
DAIMLER FIN 2.25%	500,000.00	499,308.50	
DARDEN RESTAURANTS 4.55%	50,000.00	50,198.89	
DAVITA INC 5.125%	56,000.00	56,280.00	
DAVITA INC 5%	49,000.00	48,448.75	
DAYTON POWER 3.95%	38,000.00	39,651.06	
DIAMOND 1 FIN 7.125%	164,000.00	173,288.79	
DIAMOND SPORTS 5.375%	75,000.00	76,687.50	
DIAMOND SPORTS 6.625%	54,000.00	55,721.25	
DISH DBS CORP 7.75%	509,000.00	514,247.79	
DISH NETWORK 3.375%	500,000.00	487,625.50	
DPL INC 4.35%	64,000.00	62,703.80	
DTE ENERGY CO 2.6%	37,000.00	37,139.89	
DYNEGY INC 7.625%	56,000.00	58,994.32	
EDWARDS LIFESCIENCES4.3%	404,000.00	442,085.08	
EL PASO ELECTRIC 5%	114,000.00	127,993.15	

ELDORADO RESORTS 6%	32,000.00	34,911.04	
ENDEAVOR ENERGY 5.5%	42,000.00	43,680.00	
ENERGIZER HOLDINGS 7.75%	24,000.00	26,265.00	
ENERGIZER HOLDINGS6.375%	32,000.00	33,440.00	
ENTERGY ARKANSAS 4.95%	233,000.00	246,372.56	
ENTERGY ARKANSAS 4%	68,000.00	72,869.88	
ENTERGY LOUISIANA 4%	46,000.00	50,515.13	
ENTERGY MISSISSIPPI 2.85%	88,000.00	88,549.29	
EQUINIX INC 5.375%	174,000.00	187,436.28	
EQUINIX INC 5.875%	122,000.00	130,387.50	
EVERBRIDGE INC 1.5%	505,000.00	1,522,118.46	
EXACT SCIENCES 1%	529,000.00	917,318.79	
EXXON MOBIL CORP 3.043%	111,000.00	115,188.14	
FARMERS INS 4.747% VAR	80,000.00	77,844.40	
FIDELITY NATL FIN 4.5%	90,000.00	94,731.47	
FIFTH THIRD BANCORP8.25%	50,000.00	74,992.55	
FREEPORT-MCMORAN 3.875%	258,000.00	260,197.38	
GCI INC 6.875%	86,000.00	90,730.00	
GENERAL ELECTRIC 2.7%	154,000.00	153,212.59	
GENERAL ELECTRIC 3.1%	98,000.00	98,862.10	
GENERAL ELECTRIC 4.125%	60,000.00	57,527.27	
GLOBAL AIR 6.5% SI/PIK	93,000.00	92,957.22	
GLP CAPITAL LP 5.75%	82,000.00	91,548.08	
GO DADDY OPCO 5.25%	39,000.00	40,657.50	
GOLDMAN SACHS 3.5%	258,000.00	265,897.63	
GOLDMAN SACHS 4.25%	120,000.00	128,134.80	
GOODMAN US FIN 3.7%	38,000.00	38,453.07	
GOODMAN US FIN 4.5%	43,000.00	44,774.78	
GRIFFON CORP 5.25%	164,000.00	164,393.60	
HCA INC 5.375%	26,000.00	28,366.00	
HCA INC 5.5%	700,000.00	757,920.80	
HCA INC 7.05%	22,000.00	25,080.00	
HCA INC 7.58%	35,000.00	40,950.00	
HCA INC 7.69%	96,000.00	113,520.00	
HESS CORP 5.6%	91,000.00	96,090.35	

HESS CORP 5.8%	65,000.00	71,109.61	
HILCORP ENERGY 5%	50,000.00	48,937.50	
HILCORP ENERGY 6.25%	50,000.00	49,125.00	
HILTON DOMESTIC 4.875%	88,000.00	90,750.00	
HILTON DOMESTIC 5.125%	96,000.00	100,080.00	
HUB INTERNATIONAL 7%	44,000.00	44,770.00	
HUGHES SATELLITE 5.25%	47,000.00	49,761.25	
HUNTINGTON BANCS 5.7%VAR	59,000.00	59,558.43	
HUNTINGTON INGALLS 5%	29,000.00	30,435.50	
HUNTINGTON NATL 3.125%	250,000.00	254,648.00	
IFM US COLONIAL 6.45%	400,000.00	412,354.40	
IHS MARKIT LTD 4.75%	72,000.00	80,202.24	
IHS MARKIT LTD 4%	84,000.00	87,542.28	
INSULET CORP 1.375%	250,000.00	368,360.99	
INTELSAT JACKSON 5.5%	58,000.00	53,650.00	
INTELSAT LUXEMBOURG 8.125%	63,000.00	49,966.87	
INVENTIVE GRP HLD 7.5%	24,000.00	25,104.00	
J2 CLOUD LLC 6%	33,000.00	34,938.75	
JONAH NRG LLC 7.25%	90,000.00	38,700.00	
JPMORGAN CHASE 3.9%	200,000.00	213,558.00	
KFC HLD/PIZZA HUT 4.75%	38,000.00	38,950.00	
KFC HLD/PIZZA HUT 5%	265,000.00	274,275.00	
KLA-TENCOR CORP 4.1%	32,000.00	34,412.00	
LAM RESEARCH CORP 4.875%	70,000.00	79,191.63	
LAMB WESTON HLD 4.625%	69,000.00	72,105.00	
LEGGETT & PLATT 4.4%	122,000.00	127,475.60	
LENNAR CORP 4.75%	138,000.00	144,313.50	
LENNAR CORP 4.75%	93,000.00	98,115.00	
LENNAR CORP 4.75%	267,000.00	281,351.25	
LIBERTY PROPERTY 4.375%	50,000.00	54,278.30	
LOUISVILLE GAS&EL 4.375%	52,000.00	57,797.48	
MATCH GROUP 5.625%	36,000.00	38,700.00	
MATCH GROUP 5%	25,000.00	26,243.00	
MATTEL INC 2.35%	141,000.00	138,885.00	
MATTEL INC 6.75%	42,000.00	44,310.00	

MCCORMICK & CO 4.2%	88,000.00	91,141.77	
MEG ENERGY CORP 6.5%	47,000.00	46,823.75	
MEG ENERGY CORP 7%	150,000.00	140,970.00	
MEREDITH CORP 6.875%	70,000.00	74,637.50	
MGIC INVESTMENT 5.75%	68,000.00	74,205.00	
MICRON TECHNOLOGY 5.327%	100,000.00	106,284.09	
MICROSOFT CORP 3.125%	240,000.00	251,542.56	
MICROSOFT CORP 3.3%	190,000.00	201,417.67	
MICROSOFT CORP 4.5%	66,000.00	80,507.79	
MIDWEST CONNECTOR 4.625%	112,000.00	119,301.95	
MIRABELA NICKEL 1%	1,278.48	0.12	
MOHEGAN TRIBAL 7.875%	55,000.00	53,625.00	
MONONGAHELA POWER 3.55%	48,000.00	49,773.45	
MORGAN STANLEY 3.125%	315,000.00	320,186.47	
MORGAN STANLEY 3.625%	89,000.00	93,027.87	
MOTOROLA SOLUTIONS 4.6%	59,000.00	61,981.91	
MOTOROLA SOLUTIONS 4.6%	62,000.00	65,712.00	
MPT OPER PARTNER 5%	53,000.00	55,120.00	
MURPHY OIL CORP 5.75%	50,000.00	51,424.50	
MURPHY OIL CORP 6.875%	51,000.00	53,295.00	
NATIONAL RETAIL PROP4.3%	78,000.00	84,730.30	
NAVIENT CORP 6.75%	339,000.00	354,255.00	
NEPTUNE FINCO 10.875%	200,000.00	228,960.00	
NETFLIX INC 4.875%	140,000.00	144,788.00	
NETFLIX INC 5.375%	91,000.00	96,005.00	
NETFLIX INC 5.5%	333,000.00	353,396.25	
NETFLIX INC 5.875%	321,000.00	351,394.84	
NETFLIX INC 5.875%	109,000.00	120,445.00	
NEUBERGER BERMAN 4.5%	100,000.00	105,171.20	
NEXSTAR ESCROW 5.625%	46,000.00	47,840.00	
NGPL PIPECO 4.375%	125,000.00	130,781.25	
NGPL PIPECO 4.875%	122,000.00	131,498.92	
NOKIA OYJ 4.375%	75,000.00	77,625.00	
NORTHERN NATURAL 4.3%	84,000.00	91,582.42	
NORTHWESTERN MUTUAL3.85%	108,000.00	113,282.17	

NOVELIS CORP 5.875%	56,000.00	58,240.00	
NOVELIS CORP 6.25%	54,000.00	56,835.00	
NRG ENERGY INC 3.75%	39,000.00	39,971.52	
NRG ENERGY INC 5.25%	26,000.00	27,332.50	
NRG ENERGY INC 5.75%	101,000.00	107,817.50	
NSG HOLDINGS LLC 7.75%	145,185.35	156,618.69	
NVIDIA CORP 3.2%	176,000.00	180,001.36	
OCEANEERING INTL 4.65%	41,000.00	39,990.58	
OCEANEERING INTL 6%	82,000.00	80,770.00	
OHIO POWER CO 4.15%	66,000.00	73,200.00	
OHIO POWER CO 4%	49,000.00	53,342.77	
OKLAHOMA G&E 4.15%	52,000.00	54,823.28	
ONE GAS 4.5%	51,000.00	58,968.64	
OWENS CORNING 4.3%	50,000.00	42,826.55	
OWENS CORNING 4.4%	52,000.00	45,277.00	
PACCAR FINANCIAL 2.85%	88,000.00	89,374.64	
PARTNERRE FINANCE 3.7%	93,000.00	95,082.45	
PENNSYLVANIA ELEC 3.25%	66,000.00	66,737.28	
PEPSICO INC 3.6%	98,000.00	103,719.57	
POPULAR INC 6.125%	60,000.00	64,800.00	
PROLOGIS LP 3.875%	37,000.00	40,181.85	
PUGET SOUND ENERGY 4.223%	56,000.00	62,679.28	
PULTEGROUP INC 6.375%	165,000.00	178,200.00	
RAIN CII CARBON 7.25%	99,000.00	94,297.50	
REGIONALCARE 9.75%	46,000.00	49,030.02	
REPLIGEN CORP 2.125%	300,000.00	895,002.90	
ROCHESTER GAS 3.1%	33,000.00	33,507.44	
ROPER TECHNOLOGIES 4.2%	75,000.00	81,195.22	
ROYAL CARIBBEAN 7.5%	75,000.00	93,532.87	
S&P GLOBAL INC 6.55%	71,000.00	96,853.44	
SABAL TRAIL TRANS 4.246%	85,000.00	90,865.08	
SALESFORCE.COM 3.7%	76,000.00	82,322.82	
SEALED AIR CORP 6.875%	144,000.00	161,280.00	
SELECTIVE INSURAN 5.375%	75,000.00	83,423.47	
SERVICENOW INC 0%	367,000.00	785,832.14	

SEVEN & I HOLDINGS 3.35%	200,000.00	203,938.40	
SHEA HOMES 6.125%	107,000.00	111,280.00	
SIERRA PACIFIC POWER2.6%	42,000.00	41,835.44	
SILVERSEA CRUISE FIN7.25%	76,000.00	81,795.00	
SIRIUS XM RADIO 5%	143,000.00	147,647.50	
SM ENERGY CO 6.625%	25,000.00	21,687.50	
SM ENERGY CO 6.75%	56,000.00	49,804.98	
SOUTHERN STAR CENT5.125%	50,000.00	50,610.00	
SOUTHWESTERN 7.75%	44,000.00	38,060.00	
SPIRIT REALTY 4%	51,000.00	52,024.89	
SPRINT CAP CORP 6.875%	495,000.00	550,687.50	
SPRINT CORP 7.625%	50,000.00	56,625.00	
SPX FLOW INC 5.625%	25,000.00	26,062.50	
SPX FLOW INC 5.875%	42,000.00	44,310.00	
SRC ENERGY INC 6.25%	50,000.00	43,625.00	
STARBUCKS CORP 4.45%	94,000.00	102,959.42	
STARS GRP HLDS 7%	36,000.00	38,070.00	
STATION CASINOS 5%	55,000.00	55,687.50	
STEEL DYNAMICS 4.125%	82,000.00	83,025.00	
STEEL DYNAMICS 5%	27,000.00	28,215.00	
T-MOBILE USA INC 6.375%	274,000.00	284,866.84	
T-MOBILE USA INC 6.5%	101,000.00	108,270.68	
T-MOBILE USA INC 6%	451,000.00	472,945.66	
TARGA RESOURCES 4.25%	34,000.00	34,255.00	
TARGA RESOURCES 5.875%	22,000.00	23,430.00	
TEACHERS INSUR 4.27%	96,000.00	104,215.29	
TELADOC INC 3%	71,000.00	123,497.04	
TELEFLEX INC 4.625%	75,000.00	77,531.25	
TENET HEALTHCARE 5.125%	440,000.00	440,426.80	
TENET HEALTHCARE 6.25%	107,000.00	110,878.75	
TESLA INC 5.3%	234,000.00	205,978.50	
THE MET 3.4%	100,000.00	101,846.00	
TIFFANY & CO 4.9%	75,000.00	74,398.50	
TOLL BROS FINANCE 5.625%	240,000.00	259,800.00	
TRANSDIGM INC 6.25%	134,000.00	141,872.50	

TRANSDIGM INC 6.375%	76,000.00	78,185.00	
TRANSOCEAN INC 7.5%	42,000.00	39,387.60	
TRANSOCEAN PONTUS 6.125% SI	25,515.00	26,280.45	
TRANSOCEAN PROTEUS 6.25% SI	62,250.00	65,051.25	
TRIMBLE NAVIGATION 4.75%	181,000.00	193,201.93	
TRIVIUM PACKAGING 5.5%	200,000.00	206,744.00	
TWITTER INC 1%	574,000.00	561,714.10	
UNDER ARMOUR INC 3.25%	64,000.00	61,938.36	
UNITED RENTALS 4.875%	100,000.00	101,875.00	
UNITED RENTALS 5.25%	56,000.00	57,540.00	
UNITED RENTALS 5.875%	209,000.00	224,453.46	
UNITED TECHNOLOGIES 4.125%	119,000.00	131,582.22	
UNITI GROUP/CSL 8.25%	79,000.00	72,087.50	
US BANCORP 3%	44,000.00	44,291.80	
VALEANT PHARMA 6.5%	35,000.00	36,268.75	
VALEANT PHARMA 7%	68,000.00	71,804.60	
VALEANT PHARMA 8.5%	528,000.00	583,440.00	
VEREIT OPERATING 4.875%	69,000.00	75,480.89	
VERISIGN INC 4.75%	292,000.00	308,505.88	
VERIZON COMM 2.625%	261,000.00	260,253.54	
VERSCEND HOLDING 9.75%	54,000.00	57,577.50	
VFH PARENT LLC 6.75%	300,000.00	309,750.00	
VISA INC 3.15%	62,000.00	64,961.86	
VISTRA OPERATIONS 4.3%	47,000.00	47,359.08	
VULCAN MATERIALS 4.5%	29,000.00	28,493.67	
WABTEC 3.45%	169,000.00	168,334.14	
WARRIOR MET COAL 8%	27,000.00	28,122.52	
WATCO COS LLC/FIN 6.375%	75,000.00	76,500.00	
WEBSTER FINANCIAL 4.1%	96,000.00	100,384.80	
WEIGHT WATCHERS 8.625%	106,000.00	104,807.50	
WEST STREET MERGER6.375%	66,000.00	60,802.50	
WESTERN DIGITAL 4.75%	118,000.00	117,469.00	
WESTPAC BANKING 4.11%VAR	66,000.00	67,267.39	
WEWORK COS 7.875%	48,000.00	46,890.00	
WILLIAM LYON HOMES 7%	200,000.00	200,125.00	

		WYNDHAM DESTINATIONS 4.5%MC	36,000.00	38,430.00	
		WYNDHAM DESTINATIONS 5.1%MC	49,000.00	53,532.50	
		XILINX INC 2.95%	968,000.00	982,831.69	
		XYLEM INC 3.25%	56,000.00	56,851.36	
		ZOETIS INC 3.9%	53,000.00	56,756.42	
	小計	銘柄数：322 組入時価比率：92.9%	39,224,097.77	44,727,360.41 (4,870,362,274) 97.2%	
	合計			4,870,362,274 (4,870,362,274)	
投資証券	米・ドル	CROWN CASTLE INTERNATIONAL 6.875% (PFD)	730	863,736.00	
	小計	銘柄数：1 組入時価比率：1.8%	730	863,736.00 (94,052,213) 1.9%	
	合計			94,052,213 (94,052,213)	
	合計			5,010,864,277 (5,010,864,277)	

(注1) 比率は左より組入時価の純資産総額に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

(注2) 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額であります。

(注3) 合計金額欄の( )内は、外貨建有価証券に係わるもので、内書であります。

(注4) 備考欄の は新株予約権付社債であります。

#### 有価証券明細表注記

#### 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入株式 時価比率	組入新株予約権 証券 時価比率	組入債券 時価比率	組入投資証券 時価比率	合計金額に 対する比率
米・ドル	株式 4銘柄	3.0%				3.0%
	新株予約権 証券 1銘柄		0.0%			0.0%
	国債証券 2銘柄			0.9%		0.9%
	社債券 322銘柄			94.3%		94.3%
	投資証券 1銘柄				1.8%	1.8%

## 第2 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

「デリバティブ取引等に関する注記」に記載しております。

## 2【ファンドの現況】

以下のファンドの現況は令和 1年 7月31日現在です。

### 【純資産額計算書】

#### MHAM USインカムオープンAコース（為替ヘッジあり）

資産総額	862,825,006円
負債総額	9,692,616円
純資産総額（ - ）	853,132,390円
発行済口数	881,040,508口
1口当たり純資産額（ / ）	0.9683円

#### MHAM USインカムオープンBコース（為替ヘッジなし）

資産総額	856,523,414円
負債総額	61,162円
純資産総額（ - ）	856,462,252円
発行済口数	922,842,076口
1口当たり純資産額（ / ）	0.9281円

#### （参考）LA USインカムマザーファンド

資産総額	5,346,372,011円
負債総額	121,513,683円
純資産総額（ - ）	5,224,858,328円
発行済口数	1,271,548,467口
1口当たり純資産額（ / ）	4.1091円

## 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

### (1) 受益証券の名義書換

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まります。委託会社は、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託会社がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行わないものとします。

(2) 受益者等名簿

該当事項はありません。

(3) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

(4) 受益権の譲渡制限

譲渡制限はありません。

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡にかかる譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行われるよう通知するものとします。

上記の振替について、委託会社は、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿にかかる振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託会社が必要と認めるときまたはやむを得ない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

(5) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託会社および受託会社に対抗することができません。

(6) 受益権の再分割

委託会社は、社振法に定めるところにしたがい、受託会社と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

(7) 質権口記載又は記録の受益権の取り扱いについて

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1) 資本金の額（2019年7月31日現在）

資本金の額	20億円
発行する株式総数	100,000株 (普通株式 上限100,000株、A種種類株式 上限30,000株)
発行済株式総数	40,000株 (普通株式24,490株、A種種類株式15,510株)
種類株式の発行が可能	

直近5カ年の資本金の増減：該当事項はありません。

##### (2) 会社の機構（2019年7月31日現在）

###### 会社の意思決定機構

業務執行上重要な事項は、取締役会の決議をもって決定します。

取締役は株主総会で選任されます。取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、その選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した取締役（監査等委員である取締役を除く。）の補欠として選任された取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期は、現任取締役（監査等委員である取締役を除く。）の任期の満了の時までとします。

また、監査等委員である取締役の任期は、その選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとし、任期の満了前に退任した監査等委員である取締役の補欠として選任された監査等委員である取締役の任期は、退任した監査等委員である取締役の任期の満了の時までとします。

取締役会は、決議によって代表取締役を選定します。代表取締役は、会社を代表し、取締役会の決議にしたがい業務を執行します。

また、取締役会の決議によって、取締役社長を定めることができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、原則として取締役社長が招集します。取締役会の議長は、原則として取締役社長があたります。

取締役会の決議は、法令に別段の定めがある場合を除き、議決に加わることができる取締役の過半数が出席し、出席取締役の過半数をもって行います。

###### 投資運用の意思決定機構

###### 1. 投資環境見直しおよび運用方針の策定

経済環境見直し、資産別市場見直し、資産配分方針および資産別運用方針は月次で開催する「投資環境会議」および「投資方針会議」にて協議、策定致します。これらの会議は運用本部長・副本部長、運用グループ長等で構成されます。

###### 2. 運用計画、売買計画の決定

各ファンドの運用は「投資環境会議」および「投資方針会議」における協議の内容を踏まえて、ファンド毎に個別に任命された運用担当者が行います。運用担当者は月次で運用計画書を作成し、運用本部長の承認を受けます。運用担当者は承認を受けた運用計画に基づき、運用を行います。

## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）ならびにその受益証券（受益権）の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また、「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っています。

2019年7月31日現在、委託会社の運用する投資信託は以下の通りです。（親投資信託を除く）

基本的性格	本数	純資産総額（単位：円）
追加型公社債投資信託	26	1,188,004,242,151
追加型株式投資信託	873	13,682,222,597,933
単位型公社債投資信託	42	117,985,594,596
単位型株式投資信託	164	1,274,431,192,895
合計	1,105	16,262,643,627,575

## 3【委託会社等の経理状況】

- 委託会社であるアセットマネジメントOne株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年8月6日内閣府令第52号）により作成しております。
- 財務諸表の金額は、千円未満の端数を切り捨てて記載しております。
- 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき第34期事業年度（自2018年4月1日至2019年3月31日）の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査を受けております。

### （1）【貸借対照表】

（単位：千円）

	第33期 （2018年3月31日現在）	第34期 （2019年3月31日現在）
（資産の部）		
流動資産		
現金・預金	49,071,217	41,087,475
金銭の信託	12,083,824	18,773,228
有価証券	-	153,518

未収委託者報酬		11,769,015		12,438,085
未収運用受託報酬		4,574,225		3,295,109
未収投資助言報酬		341,689		327,064
未収収益		59,526		56,925
前払費用		569,431		573,874
その他		427,238		491,914
	流動資産計	78,896,169		77,197,195
固定資産				
有形固定資産		1,643,826		1,461,316
建物	1	1,156,953	1	1,096,916
器具備品	1	476,504	1	364,399
建設仮勘定		10,368		-
無形固定資産		1,934,700		2,411,540
ソフトウェア		1,026,319		885,545
ソフトウェア仮勘定		904,389		1,522,040
電話加入権		3,931		3,931
電信電話専用施設利用権		60		23
投資その他の資産		8,270,313		9,269,808
投資有価証券		1,721,433		1,611,931
関係会社株式		3,229,196		4,499,196
長期差入保証金		1,518,725		1,312,328
繰延税金資産		1,699,533		1,748,459
その他		101,425		97,892
	固定資産計	11,848,840		13,142,665
資産合計		90,745,010		90,339,861

(単位：千円)

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債		
預り金	1,003,550	2,183,889
未払金	5,081,728	5,697,942
未払収益分配金	1,031	1,053
未払償還金	57,275	48,968
未払手数料	4,629,133	4,883,723
その他未払金	394,288	764,196
未払費用	7,711,038	6,724,986
未払法人税等	5,153,972	3,341,238
未払消費税等	1,660,259	576,632
賞与引当金	1,393,911	1,344,466

役員賞与引当金	49,986	48,609
本社移転費用引当金	156,587	-
流動負債計	22,211,034	19,917,766
固定負債		
退職給付引当金	1,637,133	1,895,158
時効後支払損引当金	199,026	177,851
固定負債計	1,836,160	2,073,009
負債合計	24,047,195	21,990,776
(純資産の部)		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	19,552,957	19,552,957
資本準備金	2,428,478	2,428,478
その他資本剰余金	17,124,479	17,124,479
利益剰余金	44,349,855	45,949,372
利益準備金	123,293	123,293
その他利益剰余金	44,226,562	45,826,079
別途積立金	24,580,000	31,680,000
研究開発積立金	300,000	-
運用責任準備積立金	200,000	-
繰越利益剰余金	19,146,562	14,146,079
株主資本計	65,902,812	67,502,329
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	795,002	846,755
評価・換算差額等計	795,002	846,755
純資産合計	66,697,815	68,349,085
負債・純資産合計	90,745,010	90,339,861

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第33期 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
営業収益				
委託者報酬	84,705,447		84,812,585	
運用受託報酬	19,124,427		16,483,356	
投資助言報酬	1,217,672		1,235,553	
その他営業収益	117,586		113,622	
営業収益計		105,165,133		102,645,117
営業費用				
支払手数料	37,242,284		36,100,556	
広告宣伝費	379,873		387,028	
公告費	1,485		375	

調査費	23,944,438		24,389,003	
調査費	10,677,166		9,956,757	
委託調査費	13,267,272		14,432,246	
委託計算費	1,073,938		936,075	
営業雑経費	1,215,963		1,254,114	
通信費	48,704		47,007	
印刷費	947,411		978,185	
協会費	64,331		63,558	
諸会費	22,412		22,877	
支払販売手数料	133,104		142,485	
営業費用計		63,857,984		63,067,153
一般管理費				
給料	11,304,873		10,859,354	
役員報酬	189,022		189,198	
給料・手当	9,565,921		9,098,957	
賞与	1,549,929		1,571,197	
交際費	58,863		60,115	
寄付金	5,150		7,255	
旅費交通費	395,605		361,479	
租税公課	625,498		588,172	
不動産賃借料	1,534,255		1,511,876	
退職給付費用	595,876		521,184	
固定資産減価償却費	1,226,472		590,667	
福利厚生費	49,797		45,292	
修繕費	4,620		16,247	
賞与引当金繰入額	1,393,911		1,344,466	
役員賞与引当金繰入額	49,986		48,609	
機器リース料	148		130	
事務委託費	3,037,804		3,302,806	
事務用消耗品費	144,804		131,074	
器具備品費	5,253		8,112	
諸経費	149,850		188,367	
一般管理費計		20,582,772		19,585,212
営業利益		20,724,376		19,992,752

(単位：千円)

	第33期 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)		第34期 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	
営業外収益				
受取利息	1,430		1,749	
受取配当金	74,278		73,517	
時効成立分配金・償還金	256		8,582	
為替差益	8,530		-	
投資信託解約益	236,398		-	
投資信託償還益	93,177		-	
受取負担金	-		177,066	
雑収入	10,306		24,919	
時効後支払損引当金戻入額	17,429		19,797	
営業外収益計		441,807		305,633
営業外費用				
為替差損	-		17,542	
投資信託解約損	4,138		-	
投資信託償還損	17,065		-	
金銭の信託運用損	99,303		175,164	

雑損失		-		5,659	
営業外費用計			120,507		198,365
経常利益			21,045,676		20,100,019
特別利益					
固定資産売却益		1		-	
投資有価証券売却益		479,323		353,644	
関係会社株式売却益	1	1,492,680		-	
本社移転費用引当金戻入額		138,294		-	
その他特別利益		350		-	
特別利益計			2,110,649		353,644
特別損失					
固定資産除却損	2	36,992		19,121	
固定資産売却損		134		-	
退職給付制度終了損		690,899		-	
システム移行損失		76,007		-	
その他特別損失		50		-	
特別損失計			804,083		19,121
税引前当期純利益			22,352,243		20,434,543
法人税、住民税及び事業税			6,951,863		6,386,793
法人税等調整額			249,832		71,767
法人税等合計			6,702,031		6,315,026
当期純利益			15,650,211		14,119,516

## (3) 【株主資本等変動計算書】

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計		その他利益剰余金			
						別途 積立金	研究開発 積立金	運用責 任準備 積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	24,580,000	300,000	200,000	6,696,350
当期変動額									
剰余金の配当									3,200,000
当期純利益									15,650,211
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	-	-	-	12,450,211
当期末残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	24,580,000	300,000	200,000	19,146,562

	株主資本		評価・換算差額等		純資産 合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	31,899,643	53,452,601	517,864	517,864	53,970,465
当期変動額					

剰余金の配当	3,200,000	3,200,000			3,200,000
当期純利益	15,650,211	15,650,211			15,650,211
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)		-	277,137	277,137	277,137
当期変動額合計	12,450,211	12,450,211	277,137	277,137	12,727,349
当期末残高	44,349,855	65,902,812	795,002	795,002	66,697,815

第34期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金			
						別途 積立金	研究開発 積立金	運用責 任準備 積立金	繰越利益 剰余金
当期首残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	24,580,000	300,000	200,000	19,146,562
当期変動額									
剰余金の配当									12,520,000
当期純利益									14,119,516
別途積立金 の積立						7,100,000			
研究開発 積立金の取崩							300,000		
運用責任準備 積立金の取崩								200,000	
繰越利益剰余金 の取崩									6,600,000
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	7,100,000	300,000	200,000	5,000,483
当期末残高	2,000,000	2,428,478	17,124,479	19,552,957	123,293	31,680,000	-	-	14,146,079

	株主資本		評価・換算差額等		純資産 合計
	利益剰余金	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計				
当期首残高	44,349,855	65,902,812	795,002	795,002	66,697,815
当期変動額					
剰余金の配当	12,520,000	12,520,000			12,520,000
当期純利益	14,119,516	14,119,516			14,119,516
別途積立金 の積立	7,100,000	7,100,000			7,100,000

研究開発 積立金の取崩	300,000	300,000			300,000
運用責任準備 積立金の取崩	200,000	200,000			200,000
繰越利益剰余金 の取崩	6,600,000	6,600,000			6,600,000
株主資本以外の 項目の当期変動 額(純額)		-	51,753	51,753	51,753
当期変動額合計	1,599,516	1,599,516	51,753	51,753	1,651,270
当期末残高	45,949,372	67,502,329	846,755	846,755	68,349,085

### 重要な会計方針

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 ：移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 時価のあるもの：決算日の市場価格等に基づく時価法 （評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの：移動平均法による原価法</p>
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。 ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。</p>
4. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、期末日の直物等為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準	<p>(1) 賞与引当金は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(2) 役員賞与引当金は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、退職一時金制度について、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>退職給付見込額の期間帰属方法 退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。</p> <p>数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法 過去勤務費用については、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異については、各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（5年または10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金は、時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> <p>(5) 本社移転費用引当金は、本社移転に関連して発生する損失に備えるため、発生すると見込まれる額を計上しております。</p>
6. 消費税等の会計処理	消費税及び地方消費税の会計処理は税抜き方式によっております。

## 表示方法の変更

第34期（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）
<p>「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当事業年度から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。</p> <p>この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」842,996千円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」1,699,533千円に含めて表示しております。</p>

## 注記事項

（貸借対照表関係）

1. 有形固定資産の減価償却累計額

（千円）

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
建物	140,580	229,897
器具備品	847,466	927,688

（損益計算書関係）

1. 関係会社に対する事項

（千円）

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
関係会社株式売却益	1,492,680	-

2. 固定資産除却損の内訳

(千円)

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
建物	298	1,550
器具備品	8,217	439
ソフトウェア	28,472	17,130
電話加入権	3	-

(株主資本等変動計算書関係)

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510
合計	40,000	-	-	40,000

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月21日 定時株主総会	普通株式	3,200,000	80,000	2017年3月31日	2017年6月22日
	A種種類 株式				

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の 種類	配当の 原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月20日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	12,520,000	313,000	2018年3月31日	2018年6月21日
	A種種 類株式					

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

発行済株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	24,490	-	-	24,490
A種種類株式	15,510	-	-	15,510

合計	40,000	-	-	40,000
----	--------	---	---	--------

## 2. 配当に関する事項

### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月20日 定時株主総会	普通株式	12,520,000	313,000	2018年3月31日	2018年6月21日
	A種種類 株式				

### (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2019年6月20日開催予定の定時株主総会において、以下のとおり決議を予定しております。

決議	株式の種類	配当の 原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月20日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	11,280,000	282,000	2019年3月31日	2019年6月21日
	A種種類 株式					

## (金融商品関係)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資運用業を営んでおります。資金運用については、短期的な預金等に限定しております。

当社が運用を行う投資信託の商品性を適正に維持するため、当該投資信託を特定金外信託を通じて、または直接保有しております。なお、特定金外信託を通じて行っているデリバティブ取引は後述するリスクを低減する目的で行っております。当該デリバティブ取引は、実需の範囲内でのみ利用することとしており、投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

金銭の信託の主な内容は、当社運用ファンドの安定運用を主な目的として資金投入した投資信託及びデリバティブ取引であります。金銭の信託に含まれる投資信託は為替及び市場価格の変動リスクに晒されておりますが、デリバティブ取引（為替予約取引、株価指数先物取引及び債券先物取引）を利用して一部リスクを低減しております。

営業債権である未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。

有価証券及び投資有価証券は、主にその他有価証券（投資信託）、業務上の関係を有する企業の株式であり、発行体の信用リスクや市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払手数料は、1年以内の支払期日であります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

預金の預入先については、余資運用規程に従い、格付けの高い預入先に限定することにより、リスクの軽減を図っております。

営業債権の相手先の信用リスクに関しては、当社の信用リスク管理の基本方針に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な相手先の信用状況を把握する体制としています。

有価証券及び投資有価証券の発行体の信用リスクに関しては、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しています。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

組織規程における分掌業務の定めに基づき、リスク管理担当所管にて、取引残高、損益及びリスク量等の実績管理を行い、定期的に社内委員会での報告を実施しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

取引実行担当所管からの報告に基づき、資金管理担当所管が資金繰りを確認するとともに、十分な手許流動性を維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません(注2)参照)。

### 第33期(2018年3月31日現在)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	49,071,217	49,071,217	-
(2) 金銭の信託	12,083,824	12,083,824	-
(3) 未収委託者報酬	11,769,015	11,769,015	-
(4) 未収運用受託報酬	4,574,225	4,574,225	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	1,448,968	1,448,968	-
資産計	78,947,251	78,947,251	-
(1) 未払手数料	4,629,133	4,629,133	-
負債計	4,629,133	4,629,133	-

### 第34期(2019年3月31日現在)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金・預金	41,087,475	41,087,475	-
(2) 金銭の信託	18,773,228	18,773,228	-
(3) 未収委託者報酬	12,438,085	12,438,085	-
(4) 未収運用受託報酬	3,295,109	3,295,109	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券	1,488,684	1,488,684	-
資産計	77,082,582	77,082,582	-
(1) 未払手数料	4,883,723	4,883,723	-
負債計	4,883,723	4,883,723	-

#### (注1) 金融商品の時価の算定方法

##### 資 産

##### (1) 現金・預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

##### (2) 金銭の信託

有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券について、投資信託は基準価額によっております。また、デリバティブ取引は取引相手先金融機関より提示された価格によっております。

##### (3) 未収委託者報酬及び(4) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、投資信託は基準価額によっておりません。

## 負債

## (1) 未払手数料

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(千円)

区分	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
非上場株式	272,464	276,764
関係会社株式	3,229,196	4,499,196

非上場株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

関係会社株式は、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、記載しておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第33期(2018年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金・預金	49,071,217	-	-	-
(2) 金銭の信託	12,083,824	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	11,769,015	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	4,574,225	-	-	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託)	-	3,995	-	-

第34期(2019年3月31日現在)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
(1) 現金・預金	41,087,475	-	-	-
(2) 金銭の信託	18,773,228	-	-	-
(3) 未収委託者報酬	12,438,085	-	-	-
(4) 未収運用受託報酬	3,295,109	-	-	-
(5) 有価証券及び投資有価証券 その他有価証券(投資信託)	153,518	1,995	996	-

(有価証券関係)

## 1. 子会社株式及び関連会社株式

関係会社株式(第33期の貸借対照表計上額3,229,196千円、第34期の貸借対照表計上額4,499,196千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 2. その他有価証券

第33期(2018年3月31日現在)

(千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,267,157	146,101	1,121,055
投資信託	177,815	153,000	24,815
小計	1,444,972	299,101	1,145,870
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
投資信託	3,995	4,000	4
小計	3,995	4,000	4
合計	1,448,968	303,101	1,145,866

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額272,464千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

### 第34期(2019年3月31日現在)

(千円)

区分	貸借対照表日における 貸借対照表計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
株式	1,326,372	111,223	1,215,148
投資信託	158,321	153,000	5,321
小計	1,484,694	264,223	1,220,470
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
株式	-	-	-
投資信託	3,990	4,000	9
小計	3,990	4,000	9
合計	1,488,684	268,223	1,220,460

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額276,674千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

### 3. 当該事業年度中に売却したその他有価証券

#### 第33期(自2017年4月1日至2018年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
株式	544,326	479,323	-
投資信託	2,480,288	329,576	21,204

(注) 投資信託の「売却額」、「売却益の合計額」及び「売却損の合計額」は、解約又は償還によるものであります。

#### 第34期(自2018年4月1日至2019年3月31日)

区分	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
----	-------------	-----------------	-----------------

株式	394,222	353,644	-
投資信託	-	-	-

## (退職給付関係)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金制度(非積立型制度であります)を採用しております。確定拠出型の制度としては確定拠出年金制度を採用しております。

なお、当社は2017年10月1日付で、確定給付企業年金制度を確定拠出年金制度等に移行するとともに、退職一時金制度を改定しました。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,718,372	2,154,607
勤務費用	269,128	300,245
利息費用	7,523	1,918
数理計算上の差異の発生額	61,792	10,147
退職給付の支払額	111,758	158,018
確定拠出制度への移行に伴う減少額	1,316,796	-
退職一時金制度改定に伴う増加額	526,345	-
その他	-	438
退職給付債務の期末残高	2,154,607	2,289,044

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
年金資産の期首残高	1,363,437	-
期待運用収益	17,042	-
事業主からの拠出額	36,672	-
確定拠出制度への移行に伴う減少額	1,417,152	-
年金資産の期末残高	-	-

## (3) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(千円)

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
非積立型制度の退職給付債務	2,154,607	2,289,044
未積立退職給付債務	2,154,607	2,289,044
未認識数理計算上の差異	204,636	150,568
未認識過去勤務費用	312,836	243,317
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,637,133	1,895,158
退職給付引当金	1,637,133	1,895,158
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,637,133	1,895,158

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
勤務費用	269,128	300,245
利息費用	7,523	1,918
期待運用収益	17,042	-
数理計算上の差異の費用処理額	88,417	43,920
過去勤務費用の費用処理額	39,611	69,519
退職一時金制度改定に伴う費用処理額	70,560	-
その他	1,620	3,640
確定給付制度に係る退職給付費用	456,577	411,963
制度移行に伴う損失(注)	690,899	-

(注) 特別損失に計上しております。

(5) 数理計算上の計算基礎に関する事項  
 主要な数理計算上の計算基礎

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
割引率	0.09%	0.09%
予想昇給率	1.00% ~ 4.42%	1.00% ~ 4.42%

3. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	300,927	-
退職給付費用	53,156	-
制度への拠出額	35,640	-
確定拠出制度への移行に伴う減少額	391,600	-
退職一時金制度改定に伴う振替額	108,189	-
退職給付引当金の期末残高	-	-

(2) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度 53,156千円 当事業年度 - 千円

4. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、前事業年度86,141千円、当事業年度104,720千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産		
未払事業税	290,493	173,805
未払事業所税	11,683	10,915
賞与引当金	426,815	411,675
未払法定福利費	81,186	80,253

未払給与	9,186	7,961
受取負担金	-	138,994
運用受託報酬	-	102,490
資産除去債務	90,524	10,152
減価償却超過額(一括償却資産)	11,331	4,569
減価償却超過額	176,791	125,839
繰延資産償却超過額(税法上)	34,977	135,542
退職給付引当金	501,290	580,297
時効後支払損引当金	60,941	54,458
ゴルフ会員権評価損	13,173	7,360
関係会社株式評価損	166,740	166,740
投資有価証券評価損	28,976	28,976
本社移転費用引当金	47,947	-
その他	29,193	29,494
繰延税金資産小計	1,981,254	2,069,527
評価性引当額	-	-
繰延税金資産合計	1,981,254	2,069,527
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	281,720	321,067
繰延税金負債合計	281,720	321,067
繰延税金資産の純額	1,699,533	1,748,459

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

### (企業結合等関係)

当社(以下「AMOne」という)は、2016年7月13日付で締結した、DIAMアセットマネジメント株式会社(以下「DIAM」という)、みずほ投信投資顧問株式会社(以下「MHAM」という)、みずほ信託銀行株式会社(以下「TB」という)及び新光投信株式会社(以下「新光投信」という)(以下総称して「統合4社」という)間の「統合契約書」に基づき、2016年10月1日付で統合いたしました。

### 1. 結合当事企業

結合当事企業	DIAM	MHAM	TB	新光投信
事業の内容	投資運用業務、投資助言・代理業務	投資運用業務、投資助言・代理業務	信託業務、銀行業務、投資運用業務	投資運用業務、投資助言・代理業務

### 2. 企業結合日

2016年10月1日

### 3. 企業結合の方法

MHAMを吸収合併存続会社、新光投信を吸収合併消滅会社とする吸収合併、TBを吸収分割会社、吸収合併後のMHAMを吸収分割承継会社とし、同社がTB資産運用部門に係る権利義務を承継する吸収分割、DIAMを吸収合併存続会社、MHAMを吸収合併消滅会社とする吸収合併の順に実施しております。

### 4. 結合後企業の名称

## アセットマネジメントOne株式会社

## 5. 企業結合の主な目的

当社は、株式会社みずほフィナンシャルグループ（以下「MHFG」という）及び第一生命ホールディングス株式会社（以下「第一生命」という）の資産運用ビジネス強化・発展に対する強力なコミットメントのもと、統合4社が長年にわたって培ってきた資産運用に係わる英知を結集し、MHFGと第一生命両社グループとの連携も最大限活用して、お客さまに最高水準のソリューションを提供するグローバルな運用会社としての飛躍を目指してまいります。

## 6. 合併比率

「3. 企業結合の方法」の吸収合併における合併比率は以下の通りであります。

会社名	DIAM (存続会社)	MHAM (消滅会社)
合併比率(*)	1	0.0154

(\*) 普通株式と種類株式を合算して算定しております。

## 7. 交付した株式数

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、DIAMは、MHAMの親会社であるMHFGに対して、その所有するMHAMの普通株式103万8,408株につき、DIAMの普通株式490株及び議決権を有しないA種種類株式15,510株を交付しました。

## 8. 経済的持分比率（議決権比率）

MHFGが企業結合直前に所有していた当社に対する経済的持分比率 50.00%

MHFGが企業結合日に追加取得した当社に対する経済的持分比率 20.00%

MHFGの追加取得後の当社に対する経済的持分比率 70.00%

なお、MHFGが所有する議決権比率については50.00%から51.00%に異動しております。

## 9. 取得企業を決定するに至った主な根拠

「3. 企業結合の方法」の吸収合併において、法的に消滅会社となるMHAMの親会社であるMHFGが、結合後企業の議決権の過半数を保有することになるため、企業結合の会計上はMHAMが取得企業に該当し、DIAMが被取得企業となるものです。

## 10. 会計処理

「企業結合に関する会計基準」（企業結合会計基準第21号 平成25年9月13日公表分）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日公表分）に基づき、「3. 企業結合の方法」の吸収合併及びの吸収分割については共通支配下の取引として処理し、の吸収合併については逆取得として処理しております。

## 11. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合に関する事項

## (1) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 MHAMの普通株式 144,212,500千円

取得原価 144,212,500千円

## (2) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

a. 発生したのれん金額 76,224,837千円

b. 発生原因 被取得企業から受け入れた資産及び引き受けた負債の純額と取得原価との差額によります。

c. のれんの償却方法及び償却期間 20年間の均等償却

## (3) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

a. 資産の額 資産合計 40,451,657千円

うち現金・預金 11,605,537千円

うち金銭の信託 11,792,364千円

b.負債の額	負債合計	9,256,209千円
	うち未払手数料及び未払費用	4,539,592千円

(注) 顧客関連資産に配分された金額及びそれに係る繰延税金負債は、資産の額及び負債の額には含まれておりません。

(4) のれん以外の無形固定資産に配分された金額及び主要な種類別の内訳並びに全体及び主要な種類別の加重平均償却期間

a.無形固定資産に配分された金額	53,030,000千円
b.主要な種類別の内訳	
顧客関連資産	53,030,000千円
c.全体及び主要な種類別の加重平均償却期間	
顧客関連資産	16.9年

## 12. 被取得企業に対してパーチェス法を適用した場合の差額

### (1) 貸借対照表項目

	第33期 (2018年3月31日現在)	第34期 (2019年3月31日現在)
流動資産	- 千円	- 千円
固定資産	114,270,495千円	104,326,078千円
資産合計	114,270,495千円	104,326,078千円
流動負債	- 千円	- 千円
固定負債	13,059,836千円	10,571,428千円
負債合計	13,059,836千円	10,571,428千円
純資産	101,210,659千円	93,754,650千円

(注) 固定資産及び資産合計には、のれん及び顧客関連資産の金額が含まれております。

のれん	70,507,975千円	66,696,733千円
顧客関連資産	45,200,838千円	39,959,586千円

### (2) 損益計算書項目

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
営業収益	- 千円	- 千円
営業利益	9,012,128千円	9,043,138千円
経常利益	9,012,128千円	9,043,138千円
税引前当期純利益	9,012,128千円	9,091,728千円
当期純利益	7,419,617千円	7,489,721千円
1株当たり当期純利益	185,490円43銭	187,243円04銭

(注) 営業利益には、のれん及び顧客関連資産の償却額が含まれております。

のれんの償却額	3,811,241千円	3,811,241千円
顧客関連資産の償却額	5,233,360千円	5,241,252千円

### (資産除去債務関係)

当社は建物所有者との間で不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約及び法令上の資産除去債務を認識しております。

なお、当該賃貸借契約に関連する長期差入保証金（敷金）が計上されているため、資産除去債務の負債計上に代えて、当該敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当期の負担に属する金額を費用計上し、直接減額しております。

### (セグメント情報等)

#### 1. セグメント情報

当社は、資産運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2. 関連情報

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)及び第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## (1) サービスごとの情報

サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## 営業収益

本邦の外部顧客に対する営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (3) 主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

## (関連当事者情報)

## 1. 関連当事者との取引

## (1) 親会社及び法人主要株主等

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当はありません。

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当はありません。

## (2) 子会社及び関連会社等

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

該当はありません。

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当はありません。

## (3) 兄弟会社等

第33期(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又は 職業	議決権 等の所有(被 所有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親 会 社 の 子 会 社	株式会社 みずほ銀行	東京都 千代田 区	14,040 億円	銀行業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	6,470,802	未払 手数料	894,336
	みずほ証 券株式会 社	東京都 千代田 区	1,251 億円	証券業	-	-	当社設定 投資信託 の販売	投資信託の 販売代行手 数料	9,079,083	未払 手数料	1,549,208

第34期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

属性	会社等の名称	住所	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 等の所 有(被 所有) 割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社の子会社	株式会社みずほ銀行	東京都千代田区	14,040億円	銀行業	-	-	当社設定投資信託の販売	投資信託の販売代行手数料	6,048,352	未払手数料	915,980
								子会社株式の取得	1,270,000	-	-
	みずほ証券株式会社	東京都千代田区	1,251億円	証券業	-	-	当社設定投資信託の販売	投資信託の販売代行手数料	10,215,017	未払手数料	1,670,194

## 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 投資信託の販売代行手数料は、一般的取引条件を勘案した個別契約により決定しております。

(注2) 子会社株式の取得は、独立した第三者機関により算定された価格を基礎として協議の上、合理的に決定しております。

(注3) 上記の取引金額には消費税等が含まれておりません。期末残高には、消費税等が含まれております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

株式会社みずほフィナンシャルグループ

(東京証券取引所及びニューヨーク証券取引所に上場)

## (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

## (1株当たり情報)

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	1,667,445円37銭	1,708,727円13銭
1株当たり当期純利益金額	391,255円29銭	352,987円92銭

(注1) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

(注2) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第33期 (自 2017年4月 1日 至 2018年3月31日)	第34期 (自 2018年4月 1日 至 2019年3月31日)
当期純利益金額	15,650,211千円	14,119,516千円
普通株主及び普通株主と同等の株主に帰属しない金額	-	-
普通株式及び普通株式と同等の株式に係る当期純利益金額	15,650,211千円	14,119,516千円
普通株式及び普通株式と同等の株式の期中平均株式数	40,000株	40,000株

(うち普通株式)	(24,490株)	(24,490株)
(うちA種種類株式)	(15,510株)	(15,510株)

(注1) A種種類株式は、剰余金の配当請求権及び残余財産分配請求権について普通株式と同等の権利を有しているため、1株当たり情報の算定上、普通株式に含めて計算しています。

#### 4【利害関係人との取引制限】

委託会社は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

- (1) 自己またはその取締役もしくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (2) 運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)
- (3) 通常の見積りの条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託会社の親法人等(委託会社の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下(4)(5)において同じ。)または子法人等(委託会社が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引または店頭デリバティブ取引を行うこと。
- (4) 委託会社の親法人等または子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額もしくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。
- (5) 上記(3)(4)に掲げるもののほか、委託会社の親法人等または子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、もしくは取引の公正を害し、または金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為。

#### 5【その他】

- (1) 定款の変更、事業譲渡又は事業譲受、出資の状況その他の重要事項

2018年6月20日付で、総則の「目的」に関する事項の定款の変更を行いました。

委託会社は、株式会社みずほ銀行から、みずほグローバルオルタナティブインベストメンツ株式会社(以下「MGAI」といいます。)の発行済株式の全てについて2018年11月1日付で譲り受け、MGAIを100%子会社(新商号:アセットマネジメントOneオルタナティブインベストメンツ株式会社)としました。

- (2) 訴訟事件その他の重要事項

委託会社およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

### 第2【その他の関係法人の概況】

#### 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

名称		資本金の額 (百万円)	事業の内容	
(1) 受託会社	みずほ信託銀行株式会社	247,369	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律(兼営法)に基づき信託業務を行っています。	
(2) 販売会社	野村證券株式会社	10,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。	
	株式会社SBI証券	48,323		
	九州FG証券株式会社 <sup>*1</sup>	3,000		
	松井証券株式会社 <sup>*2</sup>	11,945		
	マネックス証券株式会社	12,200		
	楽天証券株式会社	7,495		
	株式会社みずほ銀行	1,404,065		銀行法に基づき監督官庁の免許を受け、銀行業を営んでいます。
	株式会社肥後銀行	18,128		
	スルガ銀行株式会社	30,043		
(3) 投資顧問会社	ロード・アベット・アンド・カンパニー エルエルシー	非公開	投資会社の有価証券の引受けまたは販売、個人・組合・法人および投資会社を含むその他主体に対する投資にかかわるアドバイスの提供を含む投資顧問または運用業務、ブローカーまたはディーラーとしてのあらゆる種類の有価証券の売買、投資会社に加え一般会社の有価証券の引受けまたは販売、およびこれらの業務に付随する総ての活動などに加え、それらに限られない、一般有価証券業務に従事するものとします。	

(注)資本金の額：2019年3月末日現在

\*1 九州FG証券株式会社は、新規の受益権の取得のお申込みの取扱いは行いません。

\*2 松井証券株式会社では、MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)のみの取扱いとなっております。

## 2【関係業務の概要】

### (1) 受託会社

ファンドの受託会社として、信託財産を保管・管理し、受益権設定にかかる振替機関への通知等を行います。

### (2) 販売会社

ファンドの販売会社として、受益権の募集の取扱い、販売、一部解約の実行の請求の受付けならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

### (3) 投資顧問会社

マザーファンドにおいて、委託会社から運用指図に関する権限の委託を受け、信託財産の運用の指図を行います。

### 3【資本関係】

該当事項はありません。

（持株比率5%以上を記載します。）

<参考：再信託受託会社の概要>

名 称：資産管理サービス信託銀行株式会社

業務の概要：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約にかかる信託業務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（資産管理サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

### 第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2019年 4月26日	有価証券届出書
2019年 4月26日	有価証券報告書

## 独立監査人の監査報告書

2019年5月30日

アセットマネジメントOne株式会社  
取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 湯原 尚 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山野 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアセットマネジメントOne株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第34期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アセットマネジメントOne株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

(注2) XBR Lデータは監査の対象には含まれておりません。

## 独立監査人の監査報告書

令和1年9月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

山野 浩 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているMHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)の平成31年1月31日から令和1年7月30日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、MHAM USインカムオープンAコース(為替ヘッジあり)の令和1年7月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

令和1年9月20日

アセットマネジメントOne株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

業務執行社員

公認会計士

山野

浩

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているMHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)の平成31年1月31日から令和1年7月30日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、MHAM USインカムオープンBコース(為替ヘッジなし)の令和1年7月30日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

アセットマネジメントOne株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注)1. 上記は、当社が監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。